

令和6年度事業報告書

社会福祉法人 合志市社会福祉協議会

目 次

全体総括	1
実施事業一覧表	3
(1) 総務課	9
(2) 地域福祉課	14
(3) こども支援センター	32
(4) 生活支援相談センター	45
(5) 介護支援相談センター	
ケアプランセンター班	49
包括支援センター班	52
(6) 介護サービス課	
デイサービスセンター班	54
ヘルパーステーション班	57
(7) 障がい者支援センターれんがの家	
障がい相談支援班	59
児童発達支援班	62
(8) 障がい者支援センタースペーシアれんが	
放課後等デイ班, 生活介護班	64
(9) このみ坂保育園	67

全 体 総 括

福祉ニーズの複雑・多様化が進行する中、住民の生活に寄り添う包括的な支援体制の整備を図り、重点項目である「相談機能の強化」に注力した。生活困窮、認知症、障がい、子ども・子育てなど、分野を横断した相談支援体制を構築し、行政や関係機関と連携して迅速かつ丁寧な対応に努めた。生活困窮、高齢、障がい、子ども・子育てと個別ケースの支援が進んだ一方で、複合的なケースや制度のはざまにあるケースなど、「本人が課題としていない」「課題解決に向けて複数機関の連携が必要」「チームで支援する際のコーディネート役の不在」といった問題も浮き彫りになった。それらの課題解決に向けて社内重層支援会議や異業種・多分野の法人が参画する法人プラットフォームで支援者を支援する関係を作り、課題解決の助けや社会資源の開発の場となる必要性を感じる。

また、地域共生社会の実現を目指し、子育て世代、高齢者、障がいがある人など、すべての住民が地域で役割を持ち、つながりを実感できる取り組みを推進した。福祉教育やボランティア活動の推進、新たな居場所づくり、多世代交流の機会提供などを通じて、地域の絆を深めることができた一年であった。

今後も本会は、地域福祉の中核を担う社会福祉法人として、相談支援体制の一層の充実と、住民との協働による地域福祉の推進に取り組んでいく所存である。

各 課 事 業 要 点

(1) 地域福祉課

認知症への理解と共生を促進するため(26p)、「ささえ愛ネットワーク模擬訓練」を合志南小校区で実施した。小学校との連携による認知症サポーター養成講座や啓発活動、安全メールによる情報発信など、地域ぐるみの取り組みが進展した。軽度認知障害(MCI)のある人に対する居場所づくり(脳ケアルーム)や予防教室も継続的に開催し、認知症予防支援を強化した。

福祉教育(22p)では、学校との連携が広がり、福祉講話や体験授業を展開した。生活介護支援サポーター(28p)の協力を得て、地域における福祉の担い手育成にも寄与した。

(2) こども支援センター

地域で開催される「あそびの部屋(33p)」や「出張ひろば(35p)」に積極的に職員が関わり、子育てと仕事の両立に不安を抱える家庭や育児に専念される方などの意見や悩みに寄り添う支援に努めた。「パパのための BP プログラム(36p)」など新たな取り組みにより、育児に関する悩みを共有する機会を創出でき好評を得た。児童館(37p)では物品交換イベント「おもちゃのとりかえっこ」「ゆずりっこ」や「クリスマスコンサート」を開催し、多世代交流の場を創出した。ファミリーサポート事業(41p)では協力会員が増加し活動が定着したほか、相談支援体制の充実も図られた。

(3) 生活支援相談センター

生活困窮者支援(45p)では、緊急性の高い相談への対応や就労支援に成果が見られ、転職を繰り返していた方やひきこもり状態にあった方のうち 8 名が就労・定着するなど、具体的な成果を上げた。判断能力が低下した人の権利を擁護する法人後見事業(47p)や地域福祉権利擁護事業での日常生活の基盤を支える活動のほか、食料支援や資金貸付、償還相談(48p)など迅速な支援が展開できており、社会福祉協議会ならではの「包括的な相談支援体制」の強化が進んだ。

(4) ケアプランセンター(49p)

虐待や生活困窮といった複合的な課題を抱える利用者に対し、地域包括支援センターや民生委員などと連携し、チームによる支援体制を構築した。また、福祉支援センターとして、地域住民からの多様な相談や福祉用具の貸与にも対応し、適切な制度へのつなぎ役を担った。

(5) サブセンターふれあい館(52p)

成年後見制度の活用支援や消費者被害の予防など、権利擁護に関する業務を丁寧に実施した。地域ケア会議への参画を通じて、専門職と連携した包括的ケアマネジメントを推進し、個人および地域の課題解決に貢献した。

(6) デイサービスセンター(54p)

感染対策を徹底しつつ、筋力や認知機能の維持を目的としたサービスを継続した。利用者の状況に応じ、夕食弁当の提供や介護エクササイズを導入するなど柔軟な支援を実施した。通所型サービス A では、利用者確保に課題は残るもの、地域包括支援センターとの連携により支援体制を維持した。

(7) ホームヘルパーステーション(57p)

慢性的な人手不足が続く中で、常勤職員の稼働率向上により収益面で改善が見られた。障がい者への支援や移動支援事業では、他部署の職員が登録ヘルパーとして活動し利用者の生活の質向上に貢献した。有償ヘルパーサービスでは、制度外の支援ニーズに対しても柔軟に対応した。

(8) れんがの家(59p)

法人内の相談機能を横断的に活用し、多様な課題を抱える住民に対応した。基幹相談支援センターの設置に向けた準備も進めることができた。児童発達支援(定員 10 名)では質の高い支援体制を構築し、地域活動支援センターでは作品制作を通じた交流によって、利用者の生きがいづくりと地域のつながりを育んだ。

(9) スペーシアれんが(64p)

放課後等デイサービス(重心児 5 名、重心児外 10 名)では、公式 LINE 等を活用し家庭との連絡体制を強化した。就労される保護者の生活スタイルに対応できるよう、早朝から夜 19 時までの利用体制も工夫し対応した。日中一時支援や生活介護にも柔軟に対応し、保護者の就労継続支援に寄与した。生活介護(定員7名)では、重度利用者を受け入れたことにより保護者の就労の継続につながった。また、生産活動においては地域への販売も好調であり、利用者の意欲を引き出す取り組みとなつた。

(10) このみ坂保育園(67p)

法令遵守と安定した施設運営を実現し、チーム保育推進加算の対象施設として評価された。子どもの成長を職員全体で見守る体制や、「つどいの広場」を通じた保護者支援により、保育と子育て支援を一体的に推進した。

令和6年度 事務事業の実施方針		課名		総務課	
項目	幹	施策	枝	事務事業の名称	
組織経営管理	1	経営組織運営管理	1	評議員会の運営	
			2	評議員選任・解任委員会の運営	
			3	理事会の運営	
			4	監事監査の実施(上半期、決算時及び必要時)	
	2	社外監査への対応	5	社会福祉法人指導監査	
			6	合志市財政援助団体監査	
			7	その他事務事業監査	
	3	苦情解決体制整備	8	福祉サービス第三者委員の設置	
			9	苦情解決責任者、受付窓口の整備	
			10	情報公開制度の研究、整備	
			11	個人情報保護体制の整備	
	4	人事・労務管理業務	12	人事評価制度(処遇改善業務)導入業務	
			13	人事管理システム業務	
			14	人材交流業務	
			15	社会保険労務士による労務指導	
			16	市地域包括支援センター出向業務	
	5	就業支援業務	17	福利厚生支援業務(健診、被服貸与等)	
			18	ヘルスケア推進(産業医活用、安全衛生管理体制構築)	
			19	特定求職者就労促進業務	
			20	職員研修、資格取得支援業務	
			21	職員互助会支援業務	
組織経営管理	6	安全管理業務	22	安全運転管理者設置及び安全運転管理推進事業	
			23	拠点施設防火管理者の設置、自主防災体制の整備	
			24	防犯訓練、防犯設備の整備	
	7	財務管理業務	25	経営戦略事業(課長会の実施)	
			26	資産管理(償却資産の補修保全)	
			27	積立資産管理(投資先選定と果実管理)	
			28	公認会計士による会計事務指導(毎月)	
	8	事業管理業務	29	予算管理(予算編成と差異分析)	
			30	事業計画の策定(事業の統括管理)	
			31	施設整備計画の策定	
			32	事務事業評価の推進	
			33	福祉事業における情報処理技術(ICT)の活用	
	9	指定管理施設管理業務	34	合志市保健福祉センターふれあい館指定管理業務	
			35	合志市老人憩の家指定管理業務	

令和6年度 事務事業の実施方針		課名		地域福祉課	
項目	幹	施策	枝	事務事業の名称	
地域福祉推進事業	10	(福祉課・委) 地域支えあい推進事業	36	第4期合志市地域福祉計画、地域福祉活動計画の推進	
			37	地域福祉コーディネーター設置事業(4中学校区) (個別ニーズ調査・情報提供事業)	
			38	重層的支援体制整備事業(参加支援・アウトリーチ)	
			39	地域福祉座談会開催、地域状況・課題把握事業	
			40	避難行動要支援者システム管理事業	
			41	民生委員児童委員協働事業	
			42	シングルシルバー事業(民生委員助成:日赤募金からの助成事業)	
			43	安心ほっとライン設置推進(命のバトン)	
			44	各種福祉団体助成事業(7団体)	
			45	小規模法人のネットワーク化による協働推進事業(地域公益活動推進プラットフォーム)	
			46	シニア活動の各種・多方面からの促進(社会貢献活動:聞き書き、エンジョイファーム等)	
災害ボランティアセンター設置事業	11	災害ボランティアセンター設置事業	47	災害ボランティア養成講座	
			48	災害ボランティアセンター設置訓練(職員・一般含)	
地域福祉財源確保事業	12	地域福祉活動財源推進事業	49	社会福祉協議会会員募集の推進 (一般会員・賛助会員・法人会員)	
			50	活動寄付・募金の募集(日赤募金)	
			51	活動寄付・募金の募集(共同募金)	
			52	共同募金運営委員会・審査委員会の実施	
赤い羽根共同募金事業	13	安心生活サポート事業	53	ぽつかぽかサポート個別利用会員登録業務	
			54	ぽつかぽかサポート協力会員個人・団体登録推進 (サポートー養成・フォローアップ講座)	
			55	ぽつかぽかサポート生活困窮者、 (委:環境衛生課)高齢者ゴミだし支援事業	
			56	ぽつかぽかサポート他事業連携(ファミリーサポート)	
	14	ボランティアセンター・活動育成事業	57	ボランティアセンター設置業務(情報発信LINE構築・管理業務含)	
			58	ボランティア体験実習支援	
			59	ボランティア活動用品貸し出し業務	
			60	視覚障がい者向け情報提供事業 (音声訳CD・再生機器ブレクストーク提供)	
			61	各種ボランティア養成講座(入門講座等)	
			62	子育てサロン等地域組織化助成活動	
	15	老人福祉活動費	63	地域見守り(歳末)支援事業(民生児童委員との協働)	
	16	児童・青少年福祉活動	64	地域食堂ネットワーク事業(福・委)	
			65	小中高生職場体験実習支援	
			66	ワークキャンプ事業(小学生)	
			67	ボランティアスクール、福祉教育	
			68	ボランティア協力校推進事業(14校)	
			69	オモイカタルバ(各種青少年ボランティア、 居場所づくりLINK共同事業:すずかけベース)(福・委)	
赤い羽根共同募金事業	17	福祉育成・援助活動事業	70	福祉イベント推進事業(eボッチャ等)	
			71	地域福祉推進助成事業(ボラ連・民児協)	
			72	モデル地区社協組織化活動助成推進事業(地協)(福・委)	
			73	小地域組織化推進事業(地域支え合い活動)	
			74	教育教材の資料作成(365歩の脳活③)	
	18	障がい者福祉活動事業	75	ヘルプカード事業	

項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
介護予防・生活支援事業	19	〈高齢者支援課/包括・委) 地域住民グループ支援事業(サロン事業)	76	地域サロン活動推進・助成事業
			77	サロンボランティア育成・研修事業
			78	独居高齢者等訪問事業(民生児童委員協働)
			79	各種サロン普及事業 (体操サロン・趣味活動サロン・脳活きサロン等)
			80	男の井戸端サロン、木工やろう会、ブレンド珈琲倶楽部 男の出前キッチンかセするモン協働事業
	20	〈高齢者支援課/包括・委) 認知症予防 「脳活き生き教室」事業	81	脳活きサポーター・送迎ボランティア養成講座
			82	脳活き生き教室開催・通常版(ふれあい館他)
			83	脳活き生き教室開催・地域版(須屋・みどり館・泉ヶ丘)
			84	脳活き生き各種(講話・体力検定・ウォーカリー・青空教室)
			85	認知症予防評価事業(ファイブ・コグ)
介護予防・生活支援事業	21	〈高齢者支援課/包括・委) 認知症地域支援体制構築等推進事業	86	認知症サポーター・脳ケアルームサポーター養成事業
			87	認知症理解啓発推進事業(講演会・フォーラム等)
			88	ささえ愛ネットワーク模擬訓練(徘徊模擬訓練)
			89	認知症関連地域支援組織化事業 (ささえ愛隊協働・チームオレンジの結成)
			90	脳ケアルームの開催
			91	認知症カフェ(ありがとうカフェ)・家族のつどいの開催
			92	ささえ愛メール配信・LINE配信事業
	22	〈高齢者支援課/包括・委) 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	93	終活講座、フォローアップ講座の開催
			94	スマホ講座、フォローアップ講座の開催
			95	農園活動、フォローアップ講座の開催
			96	珈琲講座、フォローアップ講座の開催
			97	木工教室、男性の料理教室、特別講座 フォローアップ講座の開催
相談体制整備事業	23	地域の絆づくり推進事業	98	シニア活動の各種多方面からの促進(48番の事業を含む)
	24	(高齢者支援課・委) 生活介護支援サポーター養成事業	99	生活・介護支援サポーター養成・登録管理事業
			100	元気応援サポーター養成・登録管理事業
	25	(高齢者支援課・委) 家族介護教室	101	家族介護教室事業(スーパー・サポーター認定)
	26	(高齢者支援課・委) 生活支援体制整備事業	102	生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第1層)
			103	生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第2層)
			104	買い物支援(お出かけ応援プロジェクト)
相談体制整備事業	27	(総務課・委)総合相談事業	105	法律相談(ふれあい館) 行政書士・行政心配ごと相談(ふれあい館)
広報啓発事業	28	地域福祉広報強化事業	106	ほっとラインの発行(年12回)
			107	ホームページ運営
			108	SNS開設運営(フェイスブック、ツイッター、YouTube)
広報啓発事業(続き)	29	機動的広報事業	109	出前講座・職員派遣事業(はってん組、各種講座等)
			110	視察研修受入事業
			111	社会福祉関係講習会講師派遣
人材育成事業	30	人材育成事業	112	社会福祉士育成支援事業
			113	教職員福祉体験実習支援事業

令和6年度 事務事業の実施方針		課名	こども支援センター	
項目	幹	施策	枝	事務事業の名称
地域子育て支援センター事業	31	子育てに関する相談・援助事業	114	子育てに関する相談職員配置
			115	子育て関連情報提供
	32	子育て親子の交流促進事業	116	親子の集いの場の提供(あかぐみ)
			117	就園前の親子の体験活動(わっこぐらぶ)
			118	障がいを持つ親子の支援(おもちゃ図書館)
	33	親子の育ち支援事業	119	同じ悩みをもつ親子の集いの場(ツインズ)
			120	子育てに関する講習会の実施(講演会・離乳食教室)
			121	父親の育児促進
			122	親子の絆づくりプログラム実施(年4回)
	34	地域の子育て力育成事業	123	子育てサロン育成支援
			124	地域の子育て支援者育成(子育てサロン)
			125	子育て交流事業(異世代交流・交流運動会)
児童センター事業	35	出張ひろば	126	子育てに関する相談職員配置
			127	子育て関連情報提供
			128	親子の集いの場の提供
			129	子育て交流事業(異世代交流・交流運動会)
	36	児童館設置事業	130	安心な居場所の提供(遊びの場開放・ちょこっとタイム)
			131	定期点検・避難訓練実施
	37	子育てに関する相談・援助事業	132	児童厚生員配置、スキルアップ研修
			133	子育て関連情報提供
			134	関係機関との連携体制
児童センター事業	38	健全育成(個別・集団)事業	135	遊びによる子どもの育成と子育て支援
			136	児童福祉週間特別事業
			137	異世代交流促進事業(クリスマス交流音楽祭・キッズフェス)
			138	ボランティア育成
			139	自然体験・食育活動・あぐりっこくらぶなど
	39	体力増進事業	140	体力増進指導の専門員による指導
	40	地域組織化活動育成事業	141	子育てネットワークの構築、子育てサークル育成支援
	41	年長児童育成事業	142	地域福祉課連携中高生居場所づくり及び音楽スペース開放
			143	中高生ワークキャンプ(赤ちゃんふれあい体験)
			144	多様化する相談と安全な利用を提供するための職員スキルアップ
ファミリーサポートセンター事業	42	アドバイザー設置事業	145	相談、会員登録、会員管理、援助活動調整業務
			146	提供(協力)会員養成講座・フォローアップ研修実施
	43	協力会員養成及び育成事業	147	事業推進のための会員募集及び啓発・広報活動
			148	会員交流促進(全体・協力会員交流会)
			149	医療機関との連携体制強化
	44	緊急サポート事業(病児・宿泊支援)	150	提供(協力)会員育成
			151	看護師・保育士配置による保育看護業務
病児保育事業	45	病児保育事業(すこやか)	152	利用登録・広報活動及び定期的職員研修の実施
			153	感染予防・環境整備の実施
			154	医療機関との連携体制整備強化
			155	定期的健康相談(毎週)と情報提供及びすこやか通信の発行
	46	育児に関する相談・情報提供事業(すこやか)		

項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
放課後児童健全育成事業	47	学童保育事業(キッズクラブ・ぐすの木クラブ)	156	放課後児童支援員配置及び職員研修実施
			157	環境整備・避難訓練実施
ひとり親家庭等日常生活支援事業	48	発達に応じた育成支援事業	158	自主性、社会性及び創造性の向上と生活習慣確立支援
			159	障がい児支援
			160	保護者・関係機関等との連携体制強化、ICT化の実施
子育て短期支援事業	49	生活援助・子育て支援事業	161	家庭生活支援員派遣業務
			162	関係機関との連携体制
ふらっとホーム太陽事業	50	緊急的な児童預かり支援事業	163	関係機関との連携体制
	51	地域活動促進事業	164	ボランティア育成、地域交流促進

令和6年度 事務事業の実施方針		課 名	生活支援相談センター	
項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
自立相談支援事業	52	自立相談支援事業	165	窓口及び訪問(アウトリーチ)での相談対応業務
			166	就労準備支援事業(任意事業との連携)、就労支援業務
			167	家計相談支援事業(任意事業との連携)
			168	子どもの学習支援事業(任意事業との連携)
			169	ひきこもり相談支援事業
			170	緊急食糧支援業務
			171	アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化
生活福祉資金貸付事業	53	福祉資金貸付事業	172	生活福祉資金貸付事業(熊本県社会福祉協議会受託業務)
			173	新型コロナウィルス感染症特例貸付債権管理業務
			174	福祉金庫貸付事業
権利擁護	54	地域福祉権利擁護事業	175	相談支援、支援計画の作成
			176	生活支援員の養成・指導及び監督
			177	福祉サービス利用援助、日常生活金銭管理
	55	法人後見事業	178	適正な後見業務を担保する運営委員会の実施
			179	成年後見人等受任
	56	市民後見人育成事業	180	市民後見人養成講座修了者フォローアップ
	57	制度外支援	181	制度外支援(死後事務等)の研究

令和6年度 事務事業の実施方針		課 名	介護支援相談センター	
項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
地域包括サブセンター設置事業	58	〈高齢者支援課/包括・委〉 地域包括支援センター	182	地域包括支援センターサブセンター運営
介護保険 居宅介護支援事業	59	指定居宅介護支援事業	183	指定居宅介護支援事業
			184	指定介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメント事業
			185	介護認定訪問調査支援事業
			186	介護保険代行申請事業
	60	福祉用具貸出事業	187	福祉用具貸出事業

令和6年度 事務事業の実施方針	課 名		介護サービス課	
項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
通所介護事業	61	(委)総合事業	188	通所型サービスA
		通所介護事業	189	指定第1号通所事業
			190	指定通所介護事業
			191	基準該当生活介護サービス
訪問介護事業	63	(委)訪問型サービスA業務事業	192	訪問型サービスA支援事業
		(委)認知症高齢者家族やすらぎ支援事業	193	認知症高齢者家族やすらぎ支援事業
		訪問介護事業	194	指定訪問介護事業
			195	日常生活総合事業
			196	有償ホームヘルプサービス事業(制度外支援)
居宅介護事業	66	障がい者訪問支援事業の実施	197	ホームヘルパー派遣事業の実施
			198	重度訪問介護事業の実施
			199	同行援護事業の実施
			200	地域支援事業移動支援事業の実施

令和6年度 事務事業の実施方針	課 名		障がい者支援センターれんがの家・スペーシアれんが	
項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称
地域活動支援センター	67	創作的活動・生産活動 (自己実現プログラム) (自立支援プログラム)	201	陶芸
			202	手芸・木工クラブ等
	68	社会との交流を促進する活動 (社会参画プログラム)	203	地域イベントへの参加促進
			204	高齢者サロンとの交流事業の開催
相談支援	70	指定一般相談支援事業	205	手話教室の開催
		指定特定相談支援事業	206	広報「れんがだより」の発行
			207	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)の設置運営
	71		208	障害者相談支援事業所の設置運営
	72	合志市相談支援事業	209	障害児相談支援事業所の設置運営
			210	地域障がい者支援相談事業の受託運営
			211	合志市障がい者虐待防止センターの受託運営
			212	地域生活支援拠点等整備事業の実施
通所支援	73	障がい児通所事業所の設置経営	213	就学前児童発達支援事業の実施
			214	指定放課後等デイサービス事業の実施(重心児を含む)
	74	障がい児通所事業所の設置経営	215	就学期日中一時支援事業
			216	指定生活介護事業

令和6年度 事務事業の実施方針	課 名		このみ坂保育園			
項目	幹	施 策	枝	事務事業の名称		
保育園の運営	76	通常保育事業	217	通常保育事業		
			218	異年齢保育事業		
			219	体力増進事業		
			220	食育推進事業		
77			221	障がい児保育事業		
			222	延長保育事業		
			223	一時保育事業(自主事業)		
			224	家庭的保育を行う者への支援事業		
78		地域子育て拠点事業(ひろば型)	225	保育所体験交流事業		

令和6年度 事業報告書

担当課	班
総務課	総務施設班、人事班、経理班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 組織運営状況 (重要事項の決議:理事会、評議員会審議事項、監事監査の実施)

- ・任期満了に伴う役員及び評議員候補者の推薦
- ・令和5年度事業報告及び決算報告
- ・令和6年度補正予算の審議(3回)
- ・令和7年度年度事業計画、社会福祉事業会計当初予算の審議
- ・評議員選任・解任委員の選出(外部委員:2名、監事:1名、職員:1名 計4名)
- ・規則規程(定款、就業規則、給与退職手当に関する規程)の改正
(経営適正化の推進:監査、社内経理等事務指導の実施)
- ・監事による監査(2回)
- ・公認会計士事務所による事務指導(毎月)

(2) 人事労務状況(法人全体)

- ・職員数 (数字)は割合

正規職員	任期付職員	嘱託職員	臨時職員	登録職員	合計
82人(36.8)	1人(0.5)	27人(12.1)	67人(30.0)	46人(20.6)	223人(100)

- ・入局及び退職

入局			退職		
常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計
7人	7人	13人	7人	7人	15人

(3) 財務状況

本業の福祉事業である事業活動収入は、8億3890万1千円。施設整備等収入16万円、積立資産取崩収入4152万6千円を加えた収入の総額は、8億8058万7千円であった。一方、事業活動支出は、8億171万9千円。固定資産取得費、退職給付引当資産支出等を加えた支出総額は8億5353万7千円で、差異2704万9千円であった。

損益状況(事業活動計算書)では、サービス活動収益対経常は2617万3千円の増益であった。なお、事業活動収入に占める人件費比率が74パーセントとなっており、従事する職員の処遇改善も比率上昇の一因となっている。とりわけ他事業所と競合する事業の事業効果や収益状況といった現状分析が必要である。

2 業務を推進していく場合の課題

- 適切な労働時間に基づく労務管理、人事評価制度の再構築と運用
- 社内規則の整理
- 拠点区分毎の財務管理の体制整備
- 合志市施策との整合性と経営上の影響(活動拠点や施設管理、補助金及び委託事業)

3 今後の方向性

福祉業界に限らず、人材不足への対応が経営課題となっており、安定的な法人経営を実現するためには、職員の働きやすい職場環境を整え、選ばれる組織とならなければならない。「働き方改革」の趣旨も踏まえ、関連法令への対応と本会の組織状況にあわせた人事評価制度の構築に推進していく。

また、法人が行うすべての活動には、多くの公費が充当されていることから、適正な会計処理を行うとともに内部牽制体制の強化に努めていく。

なお、本会は介護、障がい及び児童福祉関係の制度事業を財源とする収益が大半を占める。安定的な収益が確保できるよう環境整備等を行いながら運営を行っていく。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
1-3	理事会、評議員会の運営・実施	継続	独自事業
・理事会 数	3回(5/29、12/5、3/19)	根拠法	社会福祉法
・評議員選任会	1回(6/13)		
・評議員会	3回(6/25、12/17、3/28)	実施回数	① 理事会 3回 ② 選任員会 1回 ③ 評議員会 3回
(主な協議事項)			
・評議員の選任			
・令和5年度事業報告、決算報告		実施場所	ふれあい館
・令和6年度補正予算の審議(3回)			
・令和7年度事業計画、社会福祉事業区分予算の審議			
・障がい者支援センター建築延期に伴う計画変更		定 数	① 理事 10人 ② 監事 2人 ③ 評議員 14人
・定款の変更(新規事業委託に伴う)			
・規則規程(職員給与・退職、就業規則等)の改正ほか			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
4	経営適正化推進事業(監事による監査:令和5年度分対象)	継続	独自事業
(1) 事業報告書は、関係法令及び通知等に従い法人の事業の執行状況を正しく示しているものと認める。	根拠法	社会福祉法 第45条第18項	
(2) 財産目録は、関係法令及び通知等に従い、法人の財産を正しく示しているものと認める。	実施日時	R6年5月16日 R6年11月7日	
(3) 貸借対照表は、関係法令及び通知等に従い、法人の資産と負債の状況を正しく示しているものと認める。	実施場所	ふれあい館	
(4) 資金収支計算書及び事業活動収支計算書は、関係法令及び通知等に従い、法人の収入と支出、収益と費用の状況を正しく示しているものと認める。	実施機関	本会監事	
(5) 付属明細書は、関連する法令及び通知等に従い、法人の計算書類の明細を正しく示しているものと認める。	人 数	2名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
5	社会福祉法人指導監査	継続	その他の事業
社会福祉法人の適正な運営等を確保するため、監督機関である合志市から、関係法令等に基づく指導監査が定期的に実施されている。	根拠法	社会福祉法 第56条第1項	
本会の一般監査の周期はB区分(3年に1回)である。令和6年度は対象外年度であることから実施なしであった。	実施日時	実施なし	
	実施場所	—	
	実施機関	合志市	
	前回実施日	令和4年8月4日	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
8-11	苦情解決体制整備	継続	独自事業
(事業の内容)		根 抱 法	社会福祉法
社会福祉法の規定に基づき、本会の実施する福祉サービスの提供に対する利用者からの苦情に関する社内体制を整備。		実 績 年 度	令和5年度 報告を掲載
(業務体制)		対 象 者	福祉サービス等の 利用者
・苦情受付担当者：各課の課長		受 付 件 数	7件
・苦情解決責任者：事務局長			
・第三者委員：元監事1名、民生委員1名			
(取扱件数)			
・苦情、要望受付状況 7件			
・申出人 ①利用者3人、②保護者家族4人、③その他なし			
・内容 施設整備の改善、職員の対応等			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
15	人事・労務管理業務	継続	独自事業
15 社会保険労務士による労務指導		事 業 費	360千円
・委託業者 有限会社ビジネス・アシスト			
・委託内容			
① 労働契約書締結			
② 育児休業に伴う手続き			
③ 業務災害の場合の労災保険諸手続き			
④ 傷病手当金手続き			
⑤ 就業規則の変更、36協定等労働基準監督署への諸届出			
⑥ 助成金・奨励金等の申請			
⑦ 障がい者雇用納付金申請書等の作成			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
19	特定求職者就労促進業務	継続	他の事業
(1)高年齢者や障害者等の就職困難者の雇い入れを実施。障害の程度により雇用保険の一般被保険者として雇入れることで助成金の対象。		根 抱 法	雇用保険法
(2)雇用実績		助 成 金 額	1, 498千円
手帳所持者数	ひとり親家庭	高年齢者(60歳以上)	合 計
5	4	47	56
(3)障がい者の就労状況		助 成 対 象 事 業	障害者雇用調整金 特定求職者雇用開発助成金
①就業場所 ふれあい館の清掃業務		対 象 者	障がい者 本会での実績
②勤務日 月曜日～金曜日 8:00～12:00/13:00～17:00		助 成 金 対 象 者 数	9名
③雇用実績 5名			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
17-21	就業支援事業	継続	独自事業
17 福利厚生支援業務	職員の福利厚生事業として健康診断、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種の補助、被服貸与等を実施。	17 事業費	1,920千円
・健康診断受診者数	149名	18 事業費	198千円
・ストレスチェック	131名		
・インフルエンザ予防接種	203名	21 事業費	345千円
18 産業医	公立菊池養生園に委託。		
21 互助会支援事業	福利厚生の一環として職員互助会へ補助を実施。	115名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
22-24	安全運転管理者設置及び安全運転管理推進事業 拠点防災管理者の設置・自衛防火・防犯推進事業	継続	独自事業
22 安全運転管理者設置による安全運転管理推進	正:事務局長 副:安全運転管理者2名を配置 (公用車による事故等の状況)	22 事業費	4万6千円
・人身事故…0件、物損事故…16件(前年度13件)		23 事業費	8千円
・安全運転管理者によるアルコールチェック義務化に伴って毎朝、 目視による確認とアルコール検知器を使用して飲酒運転撲滅およ び安全運転の意識向上を図った。			
23 防火管理者による自衛防火組織の編成及び日常の防火管理 (総合防災訓練)			
・指定管理2施設(ふれあい館、老人憩の家) ・このみ坂保育園、れんがの家、各事業所で総合防災訓練の実施。			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
25	経営戦略事業(管理者会の実施)	継続	独自事業
(実施日)	毎月1回(主に第2月曜日)	実施回数	12回 (毎月1回)
(協議内容)			
・大雨や台風等、災害の恐れがあるときの対応について			
・半期業務執行状況及び決算見込状況			
・労務管理、安全衛生管理にかかる実務			
・職員採用計画、職員意向調査ほか、各課懸案事項や事業計画等 の協議を実施			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																
28	公認会計士による会計事務指導(毎月) ・委託業者…加久公認会計士事務所 ・委託内容…毎月の定期指導、決算事務指導及び消費税申告事務他 【内容補足】より適正な会計処理を行うべく、財務会計に関する事務処理体制に係る支援項目リストに基づき、事務処理体制の向上支援を受けています。今年度は決算事務仕訳時における、注意点など総務課職員に対して講習会が開催された。	継続	独自事業																
	実施日	毎月1回 決算前1回																	
	事業費	1,364千円																	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																
34	合志市保健福祉センターふれあい館指定管理業務 (事業の内容) ・本施設は平成14年5月、保健センター、子育て支援センター、児童館の複合施設として開館。以来、社協の拠点として介護保険事業、市委託事業、乳幼児健診・がん検診の会場、ボランティアセンター、市民交流の場として総合的な保健・福祉事業を展開。 ・現在、第5期(令和4~8年度)の基本協定を合志市と締結。 (利用者及び利用料金) 各部屋に使用料が必要。 (実績) <table border="1"><thead><tr><th colspan="2">合志市</th><th colspan="2">市外</th><th rowspan="2">免除</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>個人</th><th>団体</th><th>個人</th><th>団体</th></tr></thead><tbody><tr><td>0</td><td>2,225</td><td>0</td><td>0</td><td>41,628</td><td>43,853</td></tr></tbody></table>	合志市		市外		免除	合計	個人	団体	個人	団体	0	2,225	0	0	41,628	43,853	継続	合志市受託事業
合志市		市外		免除	合計														
個人	団体	個人	団体																
0	2,225	0	0	41,628	43,853														
	営業日	※貸室:火~日																	
	営業時間	7:30~22:00																	
	休日	貸室:月曜日・祝日 および12/29~1/3																	
	対象者	合志市民																	
	年間利用者数	43,853人																	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																
35	老人憩の家指定管理業務 ・本施設は平成6年4月開館。平成18年9月より指定管理者制度により本会が管理運営を行っている。 ・現在、第5期(令和4~8年度)の基本協定を合志市と締結。 (利用者及び利用料金) ・60歳以上の高齢者 合志市内/100円、市外/400円 (実績) <table border="1"><thead><tr><th colspan="2">合志市</th><th colspan="2">市外</th><th rowspan="2">免除</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>個人</th><th>団体</th><th>個人</th><th>団体</th></tr></thead><tbody><tr><td>36,263</td><td>136</td><td>171</td><td>4</td><td>531</td><td>37,105</td></tr></tbody></table>	合志市		市外		免除	合計	個人	団体	個人	団体	36,263	136	171	4	531	37,105	継続	合志市受託事業
合志市		市外		免除	合計														
個人	団体	個人	団体																
36,263	136	171	4	531	37,105														
	営業日	火曜日~日曜日																	
	営業時間	9:00~19:00																	
	休日	月曜日および 12/29~1/3																	
	対象者	60歳以上の高齢者																	
	年間利用者数	37,105人																	

令和6年度 事業報告書

担当課	班
地域福祉課	地域福祉班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

第4期合志市地域福祉計画活動計画の方針に基づき、重点項目を進めることを目標に以下の項目を工夫しながら取り組むことができた。

(1) 重層的支援体制整備事業の本事業の実施に伴う総合相談体制の構築と強化

地域共生社会の実現に向け、複合・複雑化した相談について社協内でも各課の垣根を越えて課題解決できるように、月1回社内重層会議を設けケース検討を行った。その中で、各中学校別地域福祉コーディネーター(CSW)と生活支援コーディネーター(SC)が連携し、合志市より委託を受けた参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業を展開した。

(2) 認知症に対する地域住民の理解(共生)と予防強化

ささえ愛ネットワーク(徘徊)模擬訓練を、本年度は合志南小校区で実施した。転入者や若い世帯が多い地域性もあったが、各区長のご理解や協力体制により、スムーズに準備を進めることができた。小学校との連携を積極的に行い、認知症サポーター養成講座の実施、周知啓発ポスターの作成、安全安心メールを活用した訓練の周知を行った。認知症予防の強化については、軽度認知障害(MCI)の人が通える居場所(脳ケアルーム)、認知症予防教室を年間通して実施した。

(3) 福祉教育の推進

福祉教育の内容を各学校のボランティア担当教員へ丁寧に説明・周知することで、多くの学校から依頼があり、授業において講話・体験を実施した。生活介護支援サポーターの受講生も体験のサポートとして活動し、新たな担い手の確保につながった。また、市内支援学校からの教員の福祉体験依受入依頼により1名の教員を受け入れた。

(4) 募金活動の見直し・強化

区長会での募金活動の説明や、共同募金を活用した事業における募金の使用目的の周知を行うことで、募金活動の理解を周知することができた。さらに、各課が関わる事業所への法人募金の募集や、市内の中学校への職域募金の依頼を実施し、協力を得ることができた。年末には、赤い羽根共同募金街頭募金運動を合志市内ショッピングモール等3店の協力を得て実施することができ、募金活動の強化を図ることができた。

2 業務を推進していく場合の課題

(1) 重層的支援体制整備事業が目指している地域共生社会の本質について理解を深めていく必要がある。

また、法人内においても関係部署職員が理解し協力していく必要がある。

(2) 住民主体や地域でのつながりや居場所づくりが地域福祉として特に力を入れていく必要であるが、その活動を支える財源としての会費や募金の加入率が年々低下しており大きな課題である。

3 今後の方向性

- (1) 地域社会の課題は、単一の要因で起こるものではなく、貧困、孤立、健康問題、子育ての困難さなどが複雑に絡み合っていることが多いため、多機関・多分野との連携強化による「包括的な支援体制」を構築していく。
- (2) 複雑化・複合化する地域社会の課題解決には、専門家だけでなく、地域住民一人ひとりの主体的な参加が不可欠のため、「地域共生社会」実現に向けた「住民参加と住民自らの強みを発揮すること」の促進を図る。
- (3) 住民主体や地域でのつながりや居場所づくり等の活動を支える財源としての会費や募金の加入率の向上。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
37, 39	地域福祉コーディネーター設置事業(4中学校区) (個別ニーズ調査・情報提供事業)	継続	合志市受託事業
	住み慣れた地域において安心した生活を営むことができるよう、一人暮らし高齢者等への生活支援を目的とした基盤整備を行い、地域で安心して暮らせるためのニーズ調査、仕組みづくりを実施。中学校区ごとにコーディネーターを配置し、支援を必要とする人とそのニーズを把握する活動を実施した。 (地域福祉座談会及びコミュニティ会議の実施) ① ①地域福祉連絡協議会代表者会議(9月25日・12月19日) 叙べ参加者 37人 ② 地域福祉座談会 (1) 栄コミュニティ地域福祉座談会 8月1日 参加者 18名 (2) 中央コミュニティ地域福祉座談会 12月3日 参加者 11名 ③ 相談・対応件数(電話・来館・訪問・調整すべて含む) 合志中学校区:379件 西合志中学校区:212件 西合志南中学校区:274件 楓の森中学校区:56件	実施日時	通年
		対象者	市民全般
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
38	重層的支援体制整備事業(アウトリーチ・参加支援)への移行準備事業	新規	合志市受託事業
	誰もが支え合う地域共生社会の実現に向け、支援を必要とする市民が抱える生活課題へのアプローチを展開。また本会として横断的に、地域で包括的な支援体制を推進するために、月一回の社内重層的支援会議を実施。 ケース検討数 19名	実施日時	通年
		対象者	複合的課題を抱えた市民
	事業名	ケース対応数	
	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	0件	
	参加支援事業	4件(新規1件、継続3件)	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
40, 41, 43	避難行動要支援者システム管理事業(安心ほっとライン設置推進)	継続	合志市受託事業
	職員による訪問と合わせ、各地域の民生児童委員と連携し、要支援者の情報収集に取り組んだ。地域包括支援センター・サブセンターに協力依頼し、状況から介護保険サービス等へつなげるなど、連携をとるケースもあった。運用に際しては、福祉課と綿密な連携のもとに実施し、今年度は避難行動要支援者の登録をすべて委託事業の中で行った。また内容不備を防ぐため、3重チェックするようにした。 (整備内容) ・市同意書入力 0人 ・要支援者の台帳管理 登録者 827人 ・安心ほっとライン配布・設置(新規65人+更新762人) 827件 ・市指定の広域避難所と最寄りの二次避難所に関する調査 ・支援者の登録内容確認	実施日時	通年
		実施場所	ふれあい館
		対象者	要支援者

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
41, 42	民生委員児童委員協働事業 地域見守り	継続	独自事業
	75歳以上の人々暮らし高齢者の孤立防止と高齢者同士の交流の場の提供、自立生活の助長の目的にシングルシルバーふれあいの集いを民生児童委員協議会が主催で実施。東西の両地区の会場に集客し開催した。 ・東部地区 実施日:10月11日(金)、対象者288人中51人が会場参加 会 場:すずかけ台コミュニティセンター 取組内容:各委員による出し物、竹迫みのり保育園の園児たちによる出し物 ・西部地区 実施日:10月24日(木)、対象者351人 うち68名参加 会 場:御代志市民センター 取組内容:ステージ発表 (ひよっこ踊り・日舞・レクダンス・このみ坂保育園太鼓演奏)	実施日時	東部 10月11日 西部 10月24日
		実施場所	要支援世帯
		対象者	一人暮らし高齢者(75歳以上)
		人 数	51人(東部) 68人(西部)
		事業費	291千円
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
44	各種福祉団体助成事業(11団体)	継続	独自事業
	地域福祉推進を目的に下記のとおり助成を行った。 1、各種福祉団体助成事業 保護司会合志分会、身体障害者福祉協議会、ひとり親家庭福祉協議会、子ども会育成連絡協議会、更生保護女性会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、ボランティア連絡協議会、市内こども食堂、音詣グループ 2、地域福祉連絡協議会 モデル地区5地区(須屋、黒石、中央、野々島、合生地区) 3、サロン推進助成事業 高齢者サロン43団体、子育てサロン7団体、趣味活動サロン6団体	実施日時	通年
		対象者	各種団体
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
45	小規模法人のネットワーク化による協働推進事業(地域公益活動推進 プラットフォーム)	継続	独自事業
	福祉分野を中心に、小規模法人を含め様々な地域の事業所同士が、地域貢献のための取り組みを推進できるよう、法人間プラットフォームの構築と重層的な支援体制の構築を図ることを目的とし、定例会議及び協働事業を展開した。 ○参加法人:16法人・団体(社会福祉法人7、医療法人2、独立行政法人3、協同組合 1、民間企業(福祉関係)2、行政) ○プラットフォーム会議 計4回 社協各部署間のさらなる横断的連携を図るため、社協内プロジェクトチームも発足し、連携を図った。 ○社協内プロジェクトチーム(活動名称:LINK) 協議回数 計11回 ○協働事業 ● 学びの場:生活支援介護支援センター養成講座の講師として協力頂いた。 協力事業所:3事業所 ● つながりと共有の場:10月20日合志市総合防災訓練(福祉避難所設置訓練) 参加事業所: 3 事業所 ● 協働の場:1月19日安心サポートこうじにてフードロスの観点から食料配布会を実施。 計45世帯に配布 令和6年8月より、生活困窮者支援の社会参加(事業者内の専門性がいらない、 限定的な仕事)の場として、2事業所と連携。計8名を繋げた。	実施日時	左記記載
		対象者	16法人

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																								
46	シニア活動の各種・多方面からの促進 (聞き書き、エンジョイファーム等)	継続	独自事業																								
1	聞き書き講座・サークル活動 聞き書き講座受講者有志により「聞き書きサークルふれあい隊」が結成され、月1回の活動を実施し、本年度はサークルメンバー2名を語り手に、ご家族2名の方の「聞き書き本」を製作。「語り手」と「聞き手」そしてそれを読む「読み手」が、あたたかくゆるやかなにつながっていく活動を継続している。	対象者	市民(シニア世代)																								
2	エンジョイファーム(交流・通いの場) エンジョイファーム講座受講者有志により弘生地区に「エンジョイファーム」を開設され、週1回農園活動を実施。農園活動の他、ぽっかぽか活動や児童館との交流事業を実施した。	人 数	24人																								
3	ブレンド珈琲倶楽部 珈琲講座受講者有志により「ブレンド珈琲倶楽部」が結成され、「ありがとうカフェ」や地域のイベント等で、珈琲のおもてなしを実施。障がい者福祉施設のサンシャインワークスと協働で、オリジナル珈琲を作り窓口で販売を行っている。今年度講座受講者3名も新たに加わり活動されている。																										
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																								
47, 48	災害ボランティア養成講座 災害ボランティアセンター設置訓練(職員・一般含)	継続	その他の事業																								
●災害ボランティア養成講座																											
・一般市民向け講座 開催日:10月18日(水) 参加者:13人 須屋コミュニティを対象に市民向け講座を実施。災害ボランティアについて、災害ボランティアセンターを社協が立ち上げる意義について説明。 (講義)「令和6年能登半島地震災害派遣者による現地報告会」		実施日時	左記記載																								
・職員向け講座 開催日:10月16日(水) 参加人数:21人		実施場所	楓の森小学校・中学校																								
●災害ボランティアセンター設置訓練 開催日:10月20日(日) 場所:楓の森小学校・中学校 参加者:訓練参加者 21名 ボラ連 5人 スタッフ 13人 合志市総合防災訓練に併せて、災害ボランティアセンター設置訓練を実施。実際の災害時を想定したニーズを設定。送迎等での活動場所への移動も行った。		対象者	合志市民																								
		人 数	左記記載																								
		事業費	183千円																								
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																								
49	社会福祉協議会会員募集の推進 (一般会員・賛助会員・法人会員)	継続	独自事業																								
社協会員は、本会の運営のほか地域福祉活動を支えるため、本会の趣旨に賛同した個人・団体により構成され、実績は下記のとおり。一般会員(戸別)の加入率は49.8%(前年比0.2%減)となった。		募集実績	6,114千円																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>件数</th> <th>実績額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般会員</td> <td>普通会員 10,072口</td> <td>5,036,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>賛助会員 158口</td> <td>159,500円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特別会員 3口</td> <td>15,000円</td> </tr> <tr> <td>法人会員</td> <td>賛助会員 69社</td> <td>345,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特別会員 34社</td> <td>430,000円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">寄付金扱い</td><td>128,700円</td></tr> <tr> <td colspan="2">合計</td><td>6,114,200円</td></tr> </tbody> </table>		種別	件数	実績額	一般会員	普通会員 10,072口	5,036,000円		賛助会員 158口	159,500円		特別会員 3口	15,000円	法人会員	賛助会員 69社	345,000円		特別会員 34社	430,000円	寄付金扱い		128,700円	合計		6,114,200円	実施日時	通年
種別	件数	実績額																									
一般会員	普通会員 10,072口	5,036,000円																									
	賛助会員 158口	159,500円																									
	特別会員 3口	15,000円																									
法人会員	賛助会員 69社	345,000円																									
	特別会員 34社	430,000円																									
寄付金扱い		128,700円																									
合計		6,114,200円																									
		対象者	市民及び事業所																								

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																											
50	活動寄付・募金等の募集	継続	独自事業																											
	地域福祉活動財源として寄付・寄贈の受入を実施した。																													
・寄付金		実施日時	通年																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th colspan="2">実績額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香典返し</td><td>168件</td><td>2,828,000円</td></tr> <tr> <td>一般寄付</td><td>52件</td><td>1,216,859円</td></tr> </tbody> </table>	種別	実績額		香典返し	168件	2,828,000円	一般寄付	52件	1,216,859円	対象者	市民及び事業所																		
種別	実績額																													
香典返し	168件	2,828,000円																												
一般寄付	52件	1,216,859円																												
	うち10万円以上の高額寄付 3件																													
・寄贈	35件																													
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																											
50	活動寄付・募金の募集(日本赤十字会員募集)	継続	他の事業																											
	日本赤十字社は、人々の命と健康を守るために、国境を越えた災害救護活動や血液事業など幅広い活動を展開している。このような活動を支えている会費(活動資金)を募集するために5月を「赤十字運動月間」として、会員及び協力会員募集を、本会が窓口となり業務を行った。	募集実績	4,734千円																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>件数</th><th>実績額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会員</td><td>7件</td><td>14,000円</td></tr> <tr> <td>寄付金</td><td>自治会 19件</td><td>1,126,500円</td></tr> <tr> <td></td><td>個人 7,584件</td><td>3,593,150円</td></tr> <tr> <td>貯金利息</td><td>2件</td><td>1,152円</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>一</td><td>4,734,802円</td></tr> </tbody> </table>	種別	件数	実績額	会員	7件	14,000円	寄付金	自治会 19件	1,126,500円		個人 7,584件	3,593,150円	貯金利息	2件	1,152円	合計	一	4,734,802円	実施日時	5月									
種別	件数	実績額																												
会員	7件	14,000円																												
寄付金	自治会 19件	1,126,500円																												
	個人 7,584件	3,593,150円																												
貯金利息	2件	1,152円																												
合計	一	4,734,802円																												
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																											
51, 52	赤い羽根共同募金募集事業	継続	他の事業																											
	赤い羽根共同募金の募集を行使し共同募金委員会が実施し、本会が事務対応を行った。今年度より、新しくできた「ゆめモール」にも協力していただき街頭募金を3か所で実施。また、募金箱設置箇所も増やして募金活動を行ったが、目標額: 6,800,000円に対し、97.8%にとどまり目標額には届かなかった。一方で、職域募金・法人募金・その他の募金(募金箱)では昨年の実績を上回ることができた。	実施日時	10月～12月																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>募金種別</th><th>件数</th><th>実績額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戸別募金</td><td>10,035件</td><td>4,757,400円</td></tr> <tr> <td>街頭募金</td><td>3件</td><td>90,949円</td></tr> <tr> <td>個人募金</td><td>1件</td><td>10,000円</td></tr> <tr> <td>法人募金</td><td>151件</td><td>1,180,309円</td></tr> <tr> <td>職域募金</td><td>20件</td><td>369,356円</td></tr> <tr> <td>イベント募金</td><td>11件</td><td>34,778円</td></tr> <tr> <td>その他の募金</td><td>40件</td><td>209,993円</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>10,261件</td><td>6,652,785円</td></tr> </tbody> </table>	募金種別	件数	実績額	戸別募金	10,035件	4,757,400円	街頭募金	3件	90,949円	個人募金	1件	10,000円	法人募金	151件	1,180,309円	職域募金	20件	369,356円	イベント募金	11件	34,778円	その他の募金	40件	209,993円	合計	10,261件	6,652,785円	対象者	市民及び事業所
募金種別	件数	実績額																												
戸別募金	10,035件	4,757,400円																												
街頭募金	3件	90,949円																												
個人募金	1件	10,000円																												
法人募金	151件	1,180,309円																												
職域募金	20件	369,356円																												
イベント募金	11件	34,778円																												
その他の募金	40件	209,993円																												
合計	10,261件	6,652,785円																												
		目標額	6,800千円																											
		募金実績	6,652千円																											

53	ぽつかぽかサポート個別利用会員登録業務	継続	独自事業
	基盤支援を必要とする人々がもれなくカバーされる体制について、「安心生活サポート事業」(通称:ぽつかぽかサポート)の運営継続及び団体登録の推進を行った。 ・ぽつかぽかサポート登録(令和7年3月末) 利用会員764人 協力会員542人 団体登録12団体 対応件数(チケットベース) 3,390件 ・ぽつかぽかサポート養成講座含む住民説明 : 計1回 38人	実施日時	通年
		対象者	要支援者
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
56	ぽつかぽかサポート協力会員個人・団体登録推進 (サポートー養成・フォローアップ講座)	継続	独自事業
	地域の高齢者や障がい者等の生活ニーズに応える仕組みを安定的に持続するため、市民が主体的に運営する新たな住民参加サービス等の担い手としての育成(ぽつかぽかサポートー養成講座)に努めた。	実施日時	通年
		対象者	要支援者
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
54, 55	ぽつかぽかサポート生活困窮者、(委)高齢者ゴミだし支援事業 ファミリーサポート連携	継続	独自事業
1	ぽつかぽかサポート(生活困窮者対策、他事業連携) ぽつかぽかサポートにおいて、生活困窮者支援として安心サポート合志や他部署と連携を図り活動を展開。	実施日時	通年
2	ぽつかぽかサポート高齢者ゴミだし支援事業 市環境衛生課からの委託事業により、燃えるゴミ出しの利用料免除による利用会員の負担軽減を実施 実施人数:延べ 12人	対象者	要支援者
3	ファミリーサポートとの連携のため定期会議にファミリーサポート事業担当者も参加し、相互の情報共有を行うことで協力体制を整えた。		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
57	ボランティアセンター設置業務(情報発信LINE構築・管理業務含)	継続	独自事業
○コーディネーターの設置			
	地域のボランティア活動状況などを把握し、活動の継続や発展などを支援する視点でその促進に努めた。また、ボランティア活動に携わる人の知りたいと思っている情報を個別に提供するといった視点からセンター事業を進めるとともに、安心して活動できるよう、ボランティア活動保険の加入促進を実施した。	実施日時	通年
		実施場所	ふれあい館
	(ボランティアセンター・体験活動情報センター相談件数) ・相談件数 84 件(前年度 48 件) ・調整回数 200 回(前年度 134 回)	対象者	市民全般

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
57	ボランティアセンター運営事業、ボランティア組織支援事業 普及推進事業	継続	独自事業
○ボランティア連絡協議会活動支援 多種多様なボランティアが、それぞれの活動分野から一步前進してお互いに協力、理解、連携しあうために自主的な活動を行う連絡協議会の活動が円滑に行われるよう協力・支援した。 役員会開催数:12回 主な開催行事: (1) 令和6年5月11日 ボランティア連絡協議会総会 参加者 63名 (2) 令和6年7月20日 ボランティア連絡協議会代表者会議 参加者 42名 (3) 令和6年11月17日 スポーツ交流会 参加者 39名 (4) 令和7年1月19日 ボランティア連絡協議会交流会 参加者 100名	実施日時	通年	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
58, 59, 60	ボランティア地域活動業務 活動用品貸し出し業務 視覚障がい者向け情報提供事業(音声訳CD・再生機器プレクストーク提供)	継続	独自事業
1 ボランティア地域活動支援 (ボランティア登録人数) ・個人登録者 84人(前年度 92人) ・団体登録 102団体 1,233人(前年度 95団体 1,170人)	実施日時	通年	
ボランティア活動保 険加入状況	基本プラン 938人	天災 108人	合計 1,046人
		対象者	市民全般
		人數	1,317人
2 機材貸付 地域住民が行う福祉活動の円滑な推進と、地域への福祉啓発・広報活動を行うため、活動用品の整備を図り広く貸与を行った。 ・総貸出件数38件(体験・地域イベント用具、レクリエーション用品等)			
3 視覚障がい者向け情報提供事業 毎月広報こうし、議会だよりきずな、社協の広報誌ほっとラインを4個人・5施設にCD配布。			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
61	各種ボランティア養成講座(入門講座等)	継続	独自事業
今年度は、生活支援サポーター養成のフォローアップも含め傾聴講座、認知症サポーター養成講座を2部制で実施した。 ①学習サポーター養成講座:日時:令和6年9月25日(水)・10月2日(水) 参加者:8名 ②送迎サポーター養成講座:日時:令和6年7月17日(水)・7月26日(金)・7月31日(水) 参加者:延べ49名 ※城北自動車学校にて安全運転講習を実施した ③Eスポーツ講座関係 ・介護予防体操・eスポーツ体験※コレカラダと共同開催 日時:9月24日(火) 参加者:名 ・UDeスポーツ養成講座 日時:11月1日(金) 参加者:5名 11月8日(金) 参加者:8名 11月29日(金) 参加者:14名 2月26日(水) 参加者:22名 ・任天堂switch体験会 日時:8月23日(金) 参加者:16名 ・通いの場での新たな取り組みとして、高齢者サロン等でeスポーツ活用を行った。 延べ実施回数:16回 延べ参加者数:627名	実施日時	通年	
	実施場所	養成の内容 で決定	
	対象者	市民全般	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
65, 67	福祉教育推進事業(職場体験等受入れ) 自分達が住む地域で暮らしを支える仕事との関わりを通じて、働く喜びや自分自身の生き方を考えるきっかけとして、また「福祉」の仕事へ興味関心を持つもらうことを目的に職場体験等の受入れを積極的に行った。	継続	独自事業
	西合志南中学校 6人 職場体験(各福祉活動について) 阿蘇中央高校 28人 職場体験(各福祉活動について)	実施日時	左記記載
		実施場所	ふれあい館
		対象者	市内小中高生 大学生
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
63, 66	地域見守り(歳末)支援事業(民生児童委員との協働) 歳末たすけあい運動の一環として、民生委員・ボランティア協力校、地区の小学生などの参加・協力のもと、80歳以上一人暮らし高齢者等408人を対象に年末の防災・防犯の声掛けと共に小学生からのメッセージカードや記念品を持参し、訪問した。 なお、今年度はワークキャンプ事業「子ども大学こうし」の一環として、子ども達と一緒に記念品の配布を行った。 ○対象者:80歳以上一人暮らし高齢者等(福祉票登録者) ○対象者人数:408人(東部:168人 西部:240人) ○記念品:①元気応援カレンダー(自宅で取り組める体操や脳トレを掲載)②ご縁ハガキ(メッセージカードを書いた児童に返信するハガキ)を配布し、自宅での介護予防に取り組んでもらった。また、前年度に引き続き、児童とのハガキによる交流、つながりづくりを行ったが、返信率は22.3%と低かった。 ○協力:合志市民生委員児童委員協議会連合会、各地区小学生、各ボランティア協力校(市内小学校)	継続	独自事業
	実施日時	12月	
	実施場所	要支援世帯	
	対象者	80歳以上 独居高齢者等	
	人 数	408人	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
64	地域(こども)食堂ネットワーク事業 合志市内で活動している地域(こども)食堂同士の情報交換や共有、ボランティアのマッチング、さらにはフードバンクや企業等が食料支援(フードドライブ等)に取り組みやすい環境づくりを目的にネットワーク事業を展開。 ○ネットワーク会議:令和6年7月10日(水) 場所 ふれあい館 令和7年3月12日(水) 場所 ふれあい館 ○参加者:第1回 8名 第2回 11名 ○参加団体:市内こども食堂4か所 行政(子育て支援課等)・フードバンク等 ○協議内容:各食堂の活動・特色について 今後のネットワーク構築に向けた意見交換	継続	独自事業
	実施日時	左記記載	
	実施場所	左記記載	
	対象者	こども食堂運営者	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																												
66	ワークキャンプ事業(小学生)	継続	合志市受託事業																												
	熊本県にて7、8月に展開されている「ボランティア体験月間」に伴い、福祉やボランティアへの関心を深める体験や講習会を通じて、地域の様々な問題・自分たち自身の問題について考えるきっかけづくりとして児童・生徒を対象とした体験学習を各ボランティア協力校等に参加を呼びかけ開催した。	実施日時	左記記載																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>参加者</th><th>人数</th><th>場所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年8月21日(水)</td><td>中学生</td><td>65人</td><td>ふれあい館</td></tr> <tr> <td>令和6年8月20日(火)</td><td>小学生</td><td>77人</td><td>熊本高等専門学校</td></tr> <tr> <td>令和6年9月21日(土)</td><td>小学生</td><td>16人</td><td>ふれあい館</td></tr> <tr> <td>令和6年10月26日(土)</td><td>小学生</td><td>18人</td><td>熊本高等専門学校</td></tr> <tr> <td>令和6年11月16日(土)</td><td>小学生</td><td>6名</td><td>ふれあい館</td></tr> <tr> <td>令和6年12月14日(土)</td><td>小学生</td><td>10名</td><td>ふれあい館</td></tr> </tbody> </table>	実施日	参加者	人数	場所	令和6年8月21日(水)	中学生	65人	ふれあい館	令和6年8月20日(火)	小学生	77人	熊本高等専門学校	令和6年9月21日(土)	小学生	16人	ふれあい館	令和6年10月26日(土)	小学生	18人	熊本高等専門学校	令和6年11月16日(土)	小学生	6名	ふれあい館	令和6年12月14日(土)	小学生	10名	ふれあい館	実施場所	左記記載
実施日	参加者	人数	場所																												
令和6年8月21日(水)	中学生	65人	ふれあい館																												
令和6年8月20日(火)	小学生	77人	熊本高等専門学校																												
令和6年9月21日(土)	小学生	16人	ふれあい館																												
令和6年10月26日(土)	小学生	18人	熊本高等専門学校																												
令和6年11月16日(土)	小学生	6名	ふれあい館																												
令和6年12月14日(土)	小学生	10名	ふれあい館																												
		対象者	市内小中高校																												
		人 数	65人 127人																												
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																												
62、72	特化型サロン普及事業(体操サロン・趣味活動サロン 脳活きサロン等)、子育てサロン等地域組織化助成活動	継続	独自事業																												
	サロンが休止している地域や通常サロンとは別で1回でも多く外出する機会を増やし交流、介護予防運動をひとつのきっかけとして、地域の集いの場として開催。総合事業や趣味活動サロンへと繋ぎの役目も担うこととして事業を実施した。	実施日時 及び 実施場所	左記記載																												
1	上須屋いきいき体操サロン	上須屋学習センター	第3水曜	12回	296人																										
2	ドレミの会	灰塚改善センター	毎週水曜	37回	306人																										
3	上庄ほのぼの健康サロン	上庄公民館	第1, 3木曜	21回	419人																										
4	ふれあいカフェ	東大池公民館	年4回	3回	20人																										
5	野ばらの会	御代志市民センター	第3水曜	10回	78人																										
	子育てサロン	対象者	市民																												
	7団体 (笛原、東須屋、武蔵野台、須屋地協、杉並台、新開、若原)																														
	子育て世代が増える地域状況の中で、子育て中の保護者の集える場所がまだ少ない現状である。																														
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																												
68	ボランティア協力校推進事業(16校)	継続	合志市受託事業																												
	地域の一員として、福祉課題を感じ、考え学び、相手の立場に立った視点や心を醸成する、また小学生または中学生に対し思いやりの心を育み、「地域で支え合う」ことの重要性を感じ、多様性を認め合う地域の基盤づくり、いわゆる社会的包摂に向けた福祉教育を目的とする。	実施日時	左記記載																												
	○小学校…6校(計18回) 延べ1,759人	実施場所	各学校																												
	○特別支援学校…2校(計3回) 延べ71人	対象者	1,830人																												
	※内容については認知症サポート、福祉講話、車イス体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験を実施。																														

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態				
69	子どもの居場所づくり (各種青少年ボランティア、居場所づくりLINK共同事業)	継続	独自事業				
	将来の社会や合志市の担い手となり得る中高生へ福祉や社会貢献活動等を通じた居場所づくり「オモイカタルバ」を実施した。放課後の時間に立ち寄れる子どもの居場所づくりとして「すずかけベース」を開放。また、eスポーツボランティアとして子ども会や地域のイベントに参加しボランティア活動を行った。 ○ 子どもの居場所づくり すずかけベース 場所:NPO法人 ぽっかぽかすずかけよんなっせ 時間:毎週水曜日 15:30～ 参加費:無料 開放日:42回 年間利用人数:延べ221人	実施日時	毎週水曜日				
	○ eスポーツボランティア活動実績 依頼数:6回(子ども会活動でのeスポーツ交流) 登録人数:14人 活動のべ人数:29人	実施場所	ふれあい館				
		対象者	小学高学年～大学生				
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態				
72	モデル地区社協組織化活動助成推進事業(地協)	継続	合志市受託事業				
	地域の福祉課題や福祉活動の状況の把握、行政や各地協間の連携を推進するため、5つの地域福祉連絡協議会の代表者会議を9月と12月に行った。 (構成メンバー)区長、民生委員、老人クラブ、ボランティア、学識経験者等	実施日時	通年				
	項目 須屋 黒石 中央 野々島 合生	実施場所	各コミュニティセンター				
自治会数	8区	5区	8区	12区	10区		
加入区数	7区	4区	4区	8区	9区		
会員数	82人	48人	—	39人	32人		
高齢者サロン	7ヵ所	3ヵ所	4ヵ所	4ヵ所	1ヵ所		
子育てサロン	1ヵ所	2ヵ所	1ヵ所	—	—		
交流会回数	4回	2回	2回	2回	1回		
訪問活動	○	○	○	○	○		
	また、地域福祉連絡協議会に所属していない自治会の地域福祉活動に対して、助成できる仕組みとして「地域づくり活動応援事業助成金要綱」を作成し、1団体に適応。令和6年度～令和7年度はモデル事業として運用する。 自治会:黒石原区 活動:子どもの居場所作り	対象者	市民全般				
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態				
73	小地域組織化推進事業(地域支え合い活動)	継続	独自事業+委託				
	(見守りネットワークの状況) 住みなれた地域で自立生活を送るために、地域の福祉問題を解決するためにフォーマル・インフォーマルの資源と連携し活用するネットワークが不可欠になり、近隣住民がボランティア活動を展開していくことが課題となってくる。 現在西部地区においては5ヵ所の地域にて、高齢者やこどもたちのネットワーク活動やボランティア活動を支えるため自主的に組織化している。また東部地区においては地域サロンまたは、ぽっかぽかサポート協力団体等を中心に小地域(行政区)で取り組んでいる。 ○地協組織化数:5箇所 ○ぽっかぽかサポート団体(行政区単位):8団体	実施日時	通年				
		実施場所	各地協・サロン・行政区等				
		対象者	市民全般				

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
74	教育教材の資料作成(365歩の脳活①②③)	新規	独自事業
	自宅でも認知症予防ができる取り組みとして、合志の昔話を活用し読み書き・計算・思い出しトレーニングができる脳トレ教材「365歩の脳活①②③」を製作した。老人クラブ連合会や地域福祉連絡協議会等に、認知症予防活動の一つとして教材を活用してもらうよう働きかけた。	実施日時	令和2年5月～
	対象者 合志市内在住の方 印刷代 1,000円/冊 令和6年度発行部数 91部(令和7年3月末現在)	対象者 合志市内在住の方 印刷代 1,000円/冊 令和6年度発行部数 91部(令和7年3月末現在)	合志市内在住の方 印 刷 代 1部1,000円 発 行 部 数 91部
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
76	地域高齢者サロン活動推進(見守り活動含む)・助成事業	継続	合志市受託事業
	地域住民と協働し閉じこもりがちな高齢者を対象に参加しやすい地域内の公民館等に「通いの場所」を設置することで、仲間づくりと閉じこもり防止や福祉問題の早期発見につなげるなど介護予防効果と住民同士の交流促進から互いに見守り、支えあえる地域づくりを推進するために実施した。昨年度に引き続きeスポーツにて介護予防を実施。上古閑区・(継続)で隔週、黒石原区(継続)で月1回、また体験として複数のサロンでコンピューターゲームを導入したモデル事業を実施した。 今年度にて、1地区(武蔵野台区)にてサロン活動が終了となる。 □開催カ所数 44カ所 □開催回数 464 回 □利用者数 7,842人 □ボランティア 3,441人 □サロン参加者合計 11,283人 ※人数は延べ人数。	実施日時 実施場所 対象者 人 数	通年 各公民館等 要支援者含む市民 11, 283人
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
77	サロンボランティア育成・研修事業	継続	合志市受託事業
	サロンボランティア研修を今年度2回実施した。サロン立ち上げから、15周年が2団体(すずかけ台区、南陽区)、30周年1団体(御代志区)を迎える表彰を行った。また、送迎ボランティア養成講座と併せて実際に送迎支援をしている団体からの講話を聴いたことで、意欲的な活動が見受けられた。グループに分かれ各活動について意見交換を行うことで、研修後に活動内容のマンネリ化を防ぎ実施するところがあった。	実施日時 実施場所 対象者	左記記載 ふれあい館 65歳以上 サロンボランティア
	実施日 7月17日(水) 参加人数 35名	2月18日(火) 59名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態			
80	男の井戸端サロン	継続	合志市受託事業			
	市内在住の概ね60歳以上の男性を対象とし経験や知恵、技を生かして無理なく出来る範囲で楽しく、生きがいを感じるような活動を社協と協働にて行っている。 今年度は農園での活動を主とし、多世代交流や地域活動、会員同士のレクリエーション活動、月1回の周辺道路のゴミ拾いを実施。 (活動内容) ・野菜の栽培・販売、農園での交流活動(あぐりっこ・このみ坂保育園・社協デイ) ・定例会(毎月第一金曜日) ・生きがいづくり活動(パークゴルフ・ハイキング等) (農園交流活動)	実施日時	通年 (毎週火、金 農園活動)			
	活動回数	対象者	シニア世代男性			
	農園活動	実施場所	ふれあい館			
	あぐりっこ合同	会員数	11人			
	このみ坂保育園合同	実施日時	通年			
	延べ合計					
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態			
82~85	認知症予防事業 「脳活き生き教室」	継続	合志市受託事業			
	脳活き生き教室を認知症の予防と学習活動を通じた交流の促進、生きがい作りの場として実施した。また、地域版として脳いきいき教室修了者へ継続的な学習の場を3箇所開設し、地域のより身近な場所で開催する事で、地域で支え合い見守りあえる関係を築くきっかけとなるよう働きかけた。	実施日時	通年			
	実施場所	左記記載				
項目	ふれあい館 (通常版)	須屋 (地域版)	みどり館 (地域版)	泉ヶ丘 (地域版)	対象者	65歳以上の方
学習者	8人 137人	12人 142人	15人 246人	18人 309人		
サポーター	9人 133人	8人 148人	9人 123人	9人 172人		
送迎 サポーター	1人 20人		2人 34人	2人 42人		
※人数(上段:実人数、下段:延べ人数)						
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態			
81	認知症サポーター養成事業	継続	合志市受託事業			
	認知症高齢者等と家族を支えるため、認知症への対応(予防、早期発見、ケア等)を行うマンパワーや拠点などの「地域資源」をネットワーク化し、相互連携を図りながら有効な支援体制の構築を目的に実施した。 【認知症サポーターの養成】 認知症の方との関わり方や、地域の中で認知症の方が穏やかに生活し続けていくためにできることを考えるきっかけとして、住民・子ども・子育て親子・企業に「にわか劇」や認知症の動画等を用いて実施した。 ○ 実施回数・養成人数／8回・722人	実施日時	通年			
	実施場所	公民館 小学校等				
	対象者	市民全般				
	人 数	722人				

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
86, 90	認知症地域支援体制構築等推進事業 脳ケアルーム事業 MCI・認知症初期症状がある方への支援として、週1回の居場所を本会の拠点にて開催。認知症予防で参加する高年齢者も増え、参加者自身の予防に対する意欲が感じられた。 【脳ケアルーム】 (日程) 毎週火曜日 10:00～11:30 (場所) ふれあい館 (開催回数) 43回 (メンバー) 延べ391人 (サポートー) 延べ188人 ※見学者、18名(内、13名が継続) 【脳ケアルームサポートー定期研修】 (日程) 2回 (受講人数) 延べ51人	継 続	合志市受託事業
	実 施 日 時	通年	
	対 象 者	MCI 認知症初期	
	延 べ 人 数	左記記載	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
87	認知症関連地域支援組織化事業(講演会) 本会で養成した認知症サポートーの中から有志で登録をしていただいた方々を「ささえ愛隊」と名付けて、認知症の方を地域で支える活動を行う。 主な活動としては、徘徊行動による行方不明者が出た際にLINE配信を活用し、見守り活動を行ってもらった。また、認知症啓発のための活動(事業所への啓発)や学習会・講演会を実施した。今年度は、福祉講演会と併せて開催し、上映会・講演会の2部制で行った。 ○講演会 令和6年9月14日(土) 13:00～17:00 上 映 「ぼけますから、よろしくお願いします」 講 演 「おたがいさまの地域に生きるしあわせ」 講 師 信友 直子 氏 (映画監督) 内 容 認知症の母親を介護する父親の姿を娘である信友監督が撮影したもので、在宅介護や老々介護の現実が描かれている作品。上映後、映画の裏話や家族介護の詳細、現状を話して頂いた。 参加者数 386人	継 続	合志市受託事業
	実 施 日 時	左記記載	
	実 施 場 所	ふれあい館	
	対 象 者	市民全般	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
88	認知症地域支援体制構築等推進事業 ささえ愛ネットワーク模擬訓練、家族支援 認知症に対する正しい理解を促進し、支援の輪と認知症予防に関する知識の普及を目的に研修会及び家族支援を実施した。医療機関や福祉施設の協力により、医師・看護師・精神保健福祉士等にも参加していただき、身近なところで家族同士の情報交換の場となるつどいを定期的に開催した。 【家族のつどい】 計4回、参加者37人 【認知症カフェ】 計12回、参加者235人、ボランティア47人、スタッフ52人 【ささえ愛ネットワーク模擬訓練2024(合志南小校区)】 11月30日(土) 参加者延べ208人	継続	合志市受託事業
	実 施 日 時	左記記載	
	実 施 場 所	ふれあい館 ほか	
	対 象 者	ささえ愛隊 当事者・家族	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
89, 92	認知症関連地域支援組織化事業 (ささえ愛隊協働・チームオレンジ・アクティブチーム登録業務)	継続	合志市受託事業
【ささえ愛隊公式LINE開設】	ささえ愛隊公式LINEアカウントを開設し不明者情報の発信などに活用している。 ・LINE登録:276件・LINE配信数合計:2,746件 ・行方不明情報1件発生、その他情報発信5件	実施日時	左記記載
		実施場所	ふれあい館ほか
		対象者	ささえ愛隊当事者・家族
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
93~97	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業 終活講座、スマホ講座、農園活動講座、珈琲講座	継続	合志市受託事業
	高齢者がその知識と経験を生かし、希望と能力に応じた生産又は創造的活動に参加することによって、老後の生きがいを高め、その生活を健康で豊かなものにすることを目的に実施した。今年度新規講座として、珈琲講座を開催した。	実施日時	左記記載
		実施場所	左記記載
		対象者	市民(65歳以上)
		人 数	136名
○交流会の実施			
	地域げんきフォーラムと協働実施		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
97, 98	生きがい特別講座の開催 シニア活動の各種多方面からの促進	新規	合志市受託事業
	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業の実施講座から、自主グループ(組織化)に向けて働きかけ、助成または活動支援を行った。	実施日時	通年
① 木工やろう会 参加者数:会員 10人、延べ 92人	活動内容:生きがいの木工製作に励みながら、木工製作で地域に社会貢献をする。社協主催の木工教室での講師補助や社協玄関前のベンチ3台を作製し寄贈した。	実施場所	ふれあい館
② 男の出前キッチン“かせするモン” 参加者数:会員17人、延べ163人	活動内容:料理教室で習った料理を介して、地域でささやかな社会奉仕活動をする。ありがとうカフェでのデザートの提供、元気フォーラム食バザーで、カレーを販売した。また“料理入門教室”的講師補助として参加した。	対象者	市民(シニア世代)
③ 聞き書きサークルふれあい隊 会員:5人 活動内容:地域の高齢者を語り手に、聞き書き本を製作するボランティア。今年度は、サークルメンバーを語り手に、家族2名の聞き書き本を作成した。講座講師であった、熊保大竹熊教授と交流をはかり、アドバイスをいただいている。			
④ もりもりなかま 会員:6人	エンジョイファーム講座受講生により結成し、メンバーそれぞれが得意分野を教え合い、地域貢献活動へとつなげている。		
⑤ オリーブの会 会員:5人	終活講座受講生により結成し、終活をはじめ、今後の人生について多岐にわたり語り合う。地域フォーラムでは、生前整理を行い不用品を販売した。		

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																							
99, 100	生活・介護支援センター養成・登録管理事業 元気応援センター養成・登録管理事業	継続	合志市受託事業																							
	地域の高齢者や障がい者等の生活ニーズに応える仕組みを安定的に持続するため、市民が主体的に運営する新たな住民参加サービス等の担い手としての育成に努めた。受講者にセンター認定制度を取り入れ、啓発と地域での積極的活動へ促進を図った。また今年度も入門的研修(基礎講座)と位置づけ、受講者を市認定の「元気応援センター(訪問型Aサービス活動者)」としての認定・登録管理を行った。今年度は、元気応援センターの登録は4名であった。	実施日時	6月～7月																							
		実施場所	ふれあい館																							
		対象者	一般住民 家族介護者等																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座種別</th> <th>認定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活介護支援センター(エグゼクティブセンター)</td> <td>172人</td> </tr> <tr> <td>介護予防センター</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <th>サポート種別</th> <th>登録数</th> <th>実働数</th> </tr> <tr> <td>ぽっかぽかセンター</td> <td>87人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>元気応援センター</td> <td>14人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>養成種別</th> <th>受講時間</th> <th>参加人数</th> <th>新規登録人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入門的研修(基礎講座) (その他講座)</td> <td>3時間 16.5時間</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>				講座種別	認定数	生活介護支援センター(エグゼクティブセンター)	172人	介護予防センター	10人	サポート種別	登録数	実働数	ぽっかぽかセンター	87人	18人	元気応援センター	14人	10人	養成種別	受講時間	参加人数	新規登録人数	入門的研修(基礎講座) (その他講座)	3時間 16.5時間	12人	11人
講座種別	認定数																									
生活介護支援センター(エグゼクティブセンター)	172人																									
介護予防センター	10人																									
サポート種別	登録数	実働数																								
ぽっかぽかセンター	87人	18人																								
元気応援センター	14人	10人																								
養成種別	受講時間	参加人数	新規登録人数																							
入門的研修(基礎講座) (その他講座)	3時間 16.5時間	12人	11人																							
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																							
101	家族介護教室事業(スーパー・センター認定)	継続	合志市受託事業																							
	高齢者を介護している家族等に対し、介護方法や介護予防、また家庭で起こる緊急時の対応や福祉制度等の基礎知識や技術を習得させるための家族介護教室(=今年度より介護教室と名付け)を開催した。また今年度は、生活・介護支援センター養成事業と同時開催した。	実施日時	ふれあい館																							
		実施場所	介護者・一般																							
		対象者	延べ394人																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>テーマ</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月21日</td> <td>介護に関する基礎知識、高齢者の理解</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>6月26日</td> <td>コミュニケーション技術、認知症の理解</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>6月28日</td> <td>障がいの理解、介護における安全確保</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>7月3日</td> <td>高齢者に必要な栄養と食事</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>7月5日</td> <td>基本的な介護方法</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>9月14日</td> <td>上映会「ぼけますから、よろしくお願ひします」 講演会 信友 直子 氏 「お互いさまの地域に生きるしあわせ」</td> <td>386人</td> </tr> </tbody> </table>				日程	テーマ	参加者数	6月21日	介護に関する基礎知識、高齢者の理解	2人	6月26日	コミュニケーション技術、認知症の理解	2人	6月28日	障がいの理解、介護における安全確保	2人	7月3日	高齢者に必要な栄養と食事	1人	7月5日	基本的な介護方法	1人	9月14日	上映会「ぼけますから、よろしくお願ひします」 講演会 信友 直子 氏 「お互いさまの地域に生きるしあわせ」	386人		
日程	テーマ	参加者数																								
6月21日	介護に関する基礎知識、高齢者の理解	2人																								
6月26日	コミュニケーション技術、認知症の理解	2人																								
6月28日	障がいの理解、介護における安全確保	2人																								
7月3日	高齢者に必要な栄養と食事	1人																								
7月5日	基本的な介護方法	1人																								
9月14日	上映会「ぼけますから、よろしくお願ひします」 講演会 信友 直子 氏 「お互いさまの地域に生きるしあわせ」	386人																								
	福祉講演会は、認知症予防啓発講演会と併せて開催し、第1部を上映会、第2部を講演会と2部制で行った。																									
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																							
102, 103	生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第1層) 生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第2層)	継続	合志市受託事業																							
○第1層生活支援コーディネーター 活動件数 336件	実施日時	左記記載																								
○生活支援協議体の開催																										
【第1層生活支援協議体】	実施場所	市内全域																								
コロナ禍において、外出自粛などの影響により、閉じこもり高齢者が増加し、特に一人暮らし高齢者の見守り体制が課題となった現状を踏まえ、『自分たちにできること』を中心とした具体的な体制構築について協議。																										
第1層協議体開催回数:4回(参加者延べ158人)	対象者	左記																								

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
102, 103	生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第1層)その2 生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第2層)その2	継続	合志市受託事業
【第2層生活支援協議体】			
(東部)			
① おでかけ応援プロジェクト高齢者サロン編と題し、高齢者サロンにおける送迎支援について、令和5年10月からモデル事業としてのサロン限定送迎支援を実施 開催日:4月18日 延べ8名			
② 栄地区において、通いの場の創出を目的として、協議体を開催。 開催日:8月1日 開催場所:かとれあ会 延べ18名			
(西部)			
① 地域ケア会議にて、施設入所後に地域の友人との繋がりが薄くなることが課題として挙がり、施設と地域をつなぐ取り組みについて、協議することを目的に開催。 開催日:12月3日 開催場所:むべの里みよし 延べ11名			
○こうしほち元気ポイント制度 健康づくり、元気づくりの活動を登録し、週1回以上の通いの場創設を促す。 参加団体:8団体 登録者数:293人			
○第2層生活支援コーディネーター 主に旧西合志町を担当。本会の地域福祉コーディネーターやボランティアセンターと連携し、通いの場の活性化や人材育成・把握に努めた。 第2層生活支援コーディネーター業務(西部圏域)・活動件数433件			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
102, 103	生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第1層)その3 生活支援協議体・生活支援コーディネーター連携(第2層)その3	継続	合志市受託事業
○地域げんきフォーラムの開催:令和7年1月19日(日) 昨年度に引き続き、○福連携(まるふくれんけい)として、様々な地域団体にスポットを当てることにより、今後の活動の活性化及び地域住民の意欲の向上を目的に実施した。 【パネルディスカッション】テーマ:地域で発見!元気な活動 ファシリテーター:矢幡氏 パネリスト: ①カラーズ ②クラブみよし ③榎ノ本パッチワークサークル ④雅会 ⑤ 笹原いこいこサロン 会場参加:105名	実施日時 実施場所 対象者	左記記載 ルーロ合志 左記記載	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
104	買い物支援(お出かけ応援プロジェクト)	継続	合志市受託事業
生活支援体制整備事業の一環として、他分野に渡る行政や企業との連携・協力により、ご自身で買い物に行けない方への生活支援・閉じこもり予防・つながりづくりを目的に移動販売を展開。3年が経過、利用者も定着しつつある。また、本活動から新たな通いの場も生まれている。 ①南部ルート(泉ヶ丘市民センター・笹原公民館・西須屋団地公民館・南陽公民館・須屋市民センター) ○運行回数:21回, 延べ利用者数:1,639人 ②北部ルート(野々島市民センター・湯之端公民館・上庄公民館・栄温泉団地・みどり館) ○運行回数:22回, 延べ利用者数:665名	実施日時 実施場所 対象者	左記記載 ふれあい館ほか 左記記載	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
105	法律相談	継続	合志市受託事業
	熊本県弁護士会の協力により月2回法律相談を実施。弁護士に無料で相談できる機会とあって、毎回キャンセル待ちが出る状況であるため、毎月1日の9時からを受付開始日とし、初回相談者を優先とすることで一人でも多くの市民が相談できるよう配慮した。	実施日時	左に記載
	・日程:毎月2回(第2水曜日、第4木曜日) 午後1時～午後3時半(1組30分×5組)	対象者	市民全般
	・場所:ふれあい館		
	・相談件数:125件(相談者実数118人)		
	・相談内容内訳:相続 40件 近隣トラブル 8件 不動産 22件 借金 7件 離婚 17件 家庭内トラブル 6件 その他 25件		
	・キャンセル待ち人数:41人		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
105	行政・心配ごと相談の実施	継続	合志市受託事業
	地域住民のニーズをいち早くキャッチし、多様な相談内容に対応するために、行政相談員及び行政書士による相談支援を実施した。行政相談員と行政書士が同席することで、行政施策に関することや近隣トラブル、また相続に関する手続きなど幅広い相談内容に対応することができた。	実施日時	左に記載
	・日程:毎月1回(奇数月:第3木曜日、偶数月第1木曜日) 午前9時半～午前11時半(1組30分×4組)	対象者	市民全般
	・場所:ふれあい館		
	・相談件数:37件(相談者実数36人)		
	・相談内容内訳:行政施策 3件 相続手続等 24件 近隣トラブル 4件 不動産 1件 家庭内トラブル 1件 その他 4件		
	・キャンセル待ち人数:1人		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
106～108	ほっとラインの発行(年12回)、地域福祉広報強化推進事業、ホームページ運営 SNS開設運営(YouTube)	継続	独自事業
	毎月、百いき体操や口腔体操など高齢者だけでなく幅広い年齢層の方が気軽に自宅で行える体操動画をYouTubeで配信した。広報誌やカレンダー・高齢者サロンで配布するサロン通信に二次元コードを掲載したことや若い世代にも活用していくことができた。	実施日時	通年
1	1 ほっとラインの発行 (ア) 毎月発行(年間12回)、ポスティングにて全戸配布、総発行297,620部 ※ホームページは随時更新・発信 (イ) ホームページ閲覧件数:62,000件/19,000人 発信件数: YouTube:12件	対象者	市民全般
2	2 種別広報 (ア) ふれあいサロン情報等の種別広報発行(月1回) (イ) ファンクショナル(実用的な)広報のあり方、掲示板へのチラシ掲載 広報誌のテーマは時流に合わせて検討した。		

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態												
109～111	出前講座・職員派遣事業 視察受け入れ、社会福祉関係講習会講師派遣	継続	独自事業												
1 観察研修・情報交換受入事業 ○受入回数:4回 ○研修内容 eスポーツについて、生活支援体制整備事業について、移動販売について	実施日時	左記記載													
2 出前講座・職員派遣事業 ○今年度回数: 計39回 ○出前先: 民生児童委員、自治会、地域福祉連絡協議会、ボランティア団体、老人会、 子ども会、自主活動企業 ○講座内容 認知症サポーター、運動指導(介護予防)、認知症予防、災害関連、地域福祉、 福祉体験、eスポーツを通じたボランティア等	実施場所 対象者	市内全域 左記記載													
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態												
112, 113	社会福祉士育成支援事業 教職員福祉体験実習支援事業 社会福祉士や介護福祉士の資格取得のため、またボランティア体験等を通じ、福祉の仕事に対するやりがいや関心を高めてもらう、福祉人材育成の推進を行った。 また、社会福祉士においては育成の新カリキュラムが始まったことで、より多くの学生受け入れを行っている。 今年度の実績	継続 実施日時 実施場所 対象者	独自事業 左記記載 ふれあい館 左記記載												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th><th>人 数</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熊本学園大学</td><td>4人</td><td>社会福祉士</td></tr> <tr> <td>九州看護福祉大学</td><td>4人</td><td>社会福祉士</td></tr> <tr> <td>黒石原支援学校</td><td>1人</td><td>教職員福祉体験</td></tr> </tbody> </table>	学校	人 数	内 容	熊本学園大学	4人	社会福祉士	九州看護福祉大学	4人	社会福祉士	黒石原支援学校	1人	教職員福祉体験		
学校	人 数	内 容													
熊本学園大学	4人	社会福祉士													
九州看護福祉大学	4人	社会福祉士													
黒石原支援学校	1人	教職員福祉体験													

令和6年度 事業報告書

担当課	班
こども支援センター	こども支援センター班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

利用者が必要としている子育てに関する情報発信に努めつつ、家庭保育をはじめ、子育てと仕事の両立で保育が必要な家庭やひとり親家庭など、多様な子育てニーズに対応できるよう、一人ひとりに寄り添いながら下記のとおり子育て支援事業に取り組むことができた。

(1) 地域子育て支援センター

あそびの部屋や出張ひろばにて職員も介入しつつ保育園入所や職場復帰のタイミングなどの情報交換を促し、子育てと仕事の両立の難しさに悩まる方、育児に専念されている方の意見や悩みに寄り添いながら事業に取り組んだ。出張ひろばの利用者も着実に増え、地域の身近な場所でのつどい、居場所づくりの必要性を感じる。今年度新たにBPプログラム受講者の父親を対象としたパパのためのBPプログラムを実施し、月齢が近い子を持つ父親とのつながりづくり、育児に関する悩み等を共有する機会を創出でき好評を得た。

(2) 児童センター(西児童館)運営

今年度出張児童館においておもちゃのとりかえっこのみならず、西児童館クラブと共同しこもの衣服や文具を交換する「ゆずりっこ」を実施し、地域の親子と一緒に事業を作り上げる機会を設けることができた。また児童館イベントとして大規模なクリスマスコンサートも実施することができ、ボランティアをはじめデイサービス、れんがの家の利用者など様々な世代で音楽にふれ、交流する機会となった。

(3) 放課後児童健全育成事業

今年度策定した安全計画に基づき、利用児の引き渡し訓練を初めて実施した。今後さらにスムーズな引き渡し方法の確立と児童たちへの防災教育も考えていく。またれんがの家やデイサービス利用者など、多世代交流、福祉教育の視点も踏まえた、包括的な実践を行うことができた。さらには支援員間の情報を常日頃から共有しつつ、児童の成功体験を増やせるように事前の声掛け等にも引き続き努めた。

(4) 病児・病後児保育事業

引き続きICT活用としてスマートフォン等からの事前登録フォーム入力システムを導入し、利用者の負担軽減に努めた。コロナ禍以降着実に利用人数が増えており、前年度より延べ50名以上増加傾向にある。その中で原則一人一部屋の受入れ、確実な換気とウィルスが拡散しないように湿度をキープする等の環境整備を徹底、入室の際の抗原検査を実施しつつ受入れを行った。今年度部屋の増築改修工事を実施し、次年度の受け入れ体制強化を図った。

(5) ファミリーサポート事業

協力会員の確保につなげるだけでなく、活動に結び付くことができた(新規会員13名中8名)。また、コロナ禍以降はじめて大規模な全体交流会も開催し、利用会員協力会員同士の情報交換につなげた。配慮が必要な子どもの預かりなど、相談内容も複雑・多岐化しているものの、地道な協力会員への活動協力への声かけ、行政をはじめとする関係機関との連携を図り保護者に寄り添う支援が出来るように努めた。

2 業務を推進していく場合の課題

- (1) 子育て家庭が抱える多様なニーズへの相談業務に対応できる職員の相談援助技術の向上
- (2) 相談を受け止める体制づくりも含め、ICT活用による相談記録・子育て支援に関する情報の整理
- (3) 配置基準を満たすための人員配置の調整・確保

3 今後の方向性

- (1) 地域子育て相談機関として子育て家庭等から日常的に相談を受け適切な機関につなげる。
- (2) 安心できる子育ての環境を作るために、児童館や地域子育て支援センターが「身近な居場所」であることを周知すると同時に、成長支援を行いつつ安心して仲間づくりができる遊びや体験の場を提供する。
- (3) 新規事業の実施を踏まえ、関係機関や社内各部署との連携のさらなる強化、保護者との接点を多く作り出すことで、虐待の早期発見、潜在化しやすいニーズ、課題へ対応できる支援体制を構築する。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
114 115	子育て広報促進事業(相談含む)	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
育児不安などの身近な相談の窓口として、登録、受付、相談コーナーを設置し、情報提供とともに情報誌の発行を行った。	事 業 費	地域子育て支援事業 10,491千円	
合志市保健師の赤ちゃん訪問事業と連携し、こども支援センター事業の一覧チラシ配布を行った。母子手帳配布の際、あそびのへや・BPプログラムのチラシを配布し妊婦さんへの周知促進を図った。こども支援センターLINEでは行事の受付開始や報告、開館情報などを発信し情報提供を行った。	実 施 日 時	月～土	
<実績数>	実 施 場 所	ふれあい館	
・こども支援センターだより・ほっとライン…毎月1回発行 ・ホームページ 常時掲載・更新 ・こども支援センターチラシ配布 毎回(市:赤ちゃん訪問時) ・LINE配信 イベント開催や募集時 登録者数501名	対 象 者	妊婦、子育て世帯	
<相談実績数>	人 数	相談数5,033件	
・来所相談、コーディネート 4,033件 ・電話 1,000件			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
116	あそびのへや(0～1歳:あかぐみ)	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
同年齢の子どもを持つ親子の集まる場をつくり、育児力を育てることを目的に育児相談や情報交換、育児援助を行った。年齢ごとに開催することで、子育ての悩みも共有しやすく、悩みや不安の軽減につながっている。また、あかぐみ開催日時の中で、離乳食教室を開催。管理栄養士に直接相談できる場を設け、離乳食についてアドバイスを受け、月齢の近い親同士で情報共有を行った。	事 業 費	地域子育て支援事業	
<利用実績>	実 施 日 時	毎週水曜 10時30分～11時30分	
	実 施 場 所	ふれあい館	
	対 象 者	0歳	
	人 数	自由参加 参加総数1,178名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
117	子育て社会体験事業	継続	独自事業
(事業の内容及び実績)			
就園前の子どもとその親が、公共の場所への外出などを通して、集団の中での様々な経験や自然体験をすることで社会性や感性を育てることを目的に実施した。	事 業 費	地域子育て支援事業	
○わっこくらぶ野外活動	実 施 日 時	随時	
・実施回数 2回 (令和6年5月2日)(令和6年11月14日)	実 施 場 所	近隣の広場	
・参加者数 保護者22名、こども24名	対 象 者	就園前の親子	
	人 数	参加者総数46名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態	
117	わっこくらぶ	継続	合志市受託事業	
(事業の内容、実績)				
親子の集まりを毎週実施し、家庭保育中の親子の閉じこもりを予防、保護者のつながりができるようなきっかけづくり、育児相談、地域の子育て関連の情報提供などを行った。安全、安心して参加する中で、季節に合わせた様々な体験や音楽あそび、発達に応じた運動遊びなどができるように活動を行った。		事業費	地域子育て支援事業	
<利用実績>		実施日時	毎週木曜日	
・実施回数 43回		実施場所	ふれあい館	
・参加人数 保護者 613名	こども 709名	対象者	就園前の親子	
講師 3名		人 数	登録あり自由参加 参加総数1,325名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態	
129	地域子育て文化交流事業	継続	独自事業	
(事業の内容、実績)		事業費	地域子育て支援事業 共同募金 他	
乳幼児を持つ親子が気軽に音楽に触れる機会や、文化的体験に参加して子育ての負担感をなくし子どもと一緒に楽しむ機会を地域住民の協力により実施した。		実施回数	6回	
内容	回数	保護者	こども	合計
クリスマスコンサート	1	81	111	192
音楽会	1	13	15	28
もちつき	1	8	12	20
ミュージックケア	1	23	26	49
茶話会	1	5	6	11
DANパネ団	1	25	45	70
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態	
118	障がいをもつ子どもの支援	継続・新規	共同募金配分金	
(事業の内容、実績)		事業費	障害者福祉活動費	
発達に心配のある児童が、音楽や遊び(運動・おもちゃ)を通して心の安定をはかり、身体機能の発達を促すと共に、仲間との関係づくりを行っていくことを目的に実施した。専門知識を持ったボランティアの協力を得ながら取り組み、療育への足がかりとなるように実施した。また、障がい児の親の会については、新たに親の会(まあぶる)が立ち上がり、情報交換をはじめ子どものこと、育ちのこと、家庭のことなど日頃の生活での不安や悩みを共有する機会を作ることができた。		実施日時	毎月第4土曜日 年間計画による	
○おもちゃ図書館ちやちやちや		実施場所	ふれあい館	
実施回数 12回・保護者63名・子ども106名・ボランティアその他53名		対象者	障がいもつ子どもと 保護者	
○親の会(まあぶる) 実施回数 12回 保護者107名 子ども0名		人 数	329名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
126～129	子育て出張ひろば	継続	独自事業
(事業の内容、実績)			
	地域子育て拠点事業の出張型として、週に1回程度開設し、未就園児の親子を対象におもちゃや絵本で遊べる場を提供し、ふれあい館まで来られない家庭への、子育て支援の拠点になるように実施した。さらには健康育児相談も同会場で実施し、相談後にひろばへ参加できるよう促しも行った。	事業費	地域子育て支援事業
<利用実績>		実施日時	毎月/月曜日 年間計画による
・実施回数 42回		実施場所	南ヶ丘福祉支援センター
・参加人数 保護者388名 子ども470名		対象者	就園前親子
		人 数	858名
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
119	にこにこツインズ(ふたごちゃんのつどい)	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)		事業費	地域子育て支援事業
	同じ悩みをもつ家族同士の集いの場を提供し、仲間づくりや情報交換をしながら、育児不安を解消する力を育むことを目的に開催した。	実施日時	原則奇数月 第2月曜日10時半～
	妊娠中の参加もあり、会を通してタイムリーな情報を得る事で多胎児育児のコツを知ったり、多胎児に特化した悩みや大変さ、子育ての喜びを共有したりする中で原動力となり、同じ境遇の方との繋がり作りのきっかけとなった。また、ツインズの以前の参加者もボランティアで参加してもらい、子育ての不安に寄り添う体制も作ることが出来た。	実施場所	ふれあい館
<利用実績>		対象者	多胎児をもつ保護者 (妊婦も含む)
実施回数 4回		人 数	28名
参加人数 保護者 10名 子ども 18名			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
120, 122	講習会の実施	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)		事業費	地域子育て支援事業
	育児不安の解消や親子の愛着を深めることを目的に各種講習や年齢に合わせた保育講座や、子育て講演会は中高生の参加申し込みが多く、2部屋に分けて実施した。	実施日時	左記
○離乳食教室		実施場所	ふれあい館
実施回数 4回(6.9.12.3月)		対象者	各時期にあつた親子 とボランティア
参加人数 保護者 53名、子ども 53名		人 数	384名
○BPプログラム			
実施回数 4回(5.9.11.2.月)			
参加人数 保護者90名、子ども 90名			
○子育て講演 「命の大切さについて」講師:田尻由貴子氏			
参加人数 (保護者24名 子ども24名 中高生50名)			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
130 131	児童センター設置運営事業	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
地域の子どもたちが健全な遊びを通じて、健康や体力を増進し、情操を豊かにしていくための施設として設置・運営した。 ゆうしつ・あそびにわ、児童図書の設置、おもちゃの貸出・管理、利用者登録管理、子育て支援の情報提供と相談、安全点検管理を行った。 引き続き感染対策として換気や遊具消毒などを実施して開館した。 <開設日数>292日 <開設時間>午前9時00分～午後12時00分 午後1時00分～午後5時00分(土曜日は4時30分)(日曜日は休館) <新規登録>こども 1007名 保護者・大人 972名 <利用者数>幼児 4,918名 小学生 212名 中・高校生4名 保護者3,695名	事業費	児童センター事業 5,400千円	
	実施日時	月曜日～土曜日(休館: 日祝日・年末年始・)	
	実施場所	ふれあい館	
	対象者	0歳～18歳までの 児童とその家族	
	人 数	8,829名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
137	キッズフェス	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
子どもが気持ちを発散して遊ぶことができる場を設け、子ども達が自ら活躍し、感性や創造力を養う。子どもの興味や関心を引き出しながら、親子で楽しむ。様々な人達と関わる事で、コミュニケーション力の向上及び社会性を身につける機会とする。また、親子で遊びの楽しさや面白さ、他者と関わる事の嬉しさを感じる。活動を通して市民との繋がりを持ち、合志市社協(共同募金会)や西児童館の取り組みを周知する。	事業費	児童センター事業	
<事業実績>	実施日時	R6.10.13(日)	
	実施場所	ふれあい館	
	対象者	合志市在住の親子 18歳までの児童	
	利用者数	500名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
137	クリスマスコンサート	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
ふれあい館で開催することで、日頃音楽会を聴きに出かける機会が少ない高齢者や障がいを持っている方、子育て中の方、地域の方々が、演奏家による素敵な演奏を楽しむ機会を設ける。人が集まれば音楽が始まるをテーマに音楽に合わせて歌ったり、リズム打ちをしたりと一緒に音楽を楽しみ、音楽を通して異世代交流を図り、クリスマス装飾をした館内でクリスマスの雰囲気を感じ味わう。さらには日頃ふれあい館を利用している方の発表の場として、目標に向かって意欲的に取り組み、達成感を味わう。	事業費	児童センター事業	
<事業実績>	実施日時	R6.12.14(土)	
	実施場所	ふれあい館 交流ホール、児童	
	対象者	18歳までの子どもを もつ家族(合志市在 住)	
	利用者数	192名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
132, 133, 137	児童厚生員の設置事業	単年度	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
遊びや生活を通して健全育成を行うと共に、子どもや保護者が抱えている課題に対応し関係機関に繋いだ。また、母親クラブ等の地域組織の育成及び支援や、『ちよこっとタイム』を行い、読み聞かせや手遊びを行い親子でふれあいの時間となり定着している。行事については、地域住民との交流の機会として「エンジョイファーム(野外活動)」に取り組み、地域資源を活用した異世代交流活動を実施した。「キッズフェスティバル」は様々な職業に関心を持つてもらえるようお仕事体験の開催や12月にはドライブインシアター(映画鑑賞)を開催し、小さい子を持つ親や障がいを持つ家族も周りを気にする事なく、家族単位で安心・安全に楽しめるものであり、好評であった。	事業費	児童センター事業	
<利用者数>			
○文化交流行事		実施日時	開館日:月曜日～土日曜日 289日
(フルートコンサート・エンジョイファーム・キッズフェス・クリスマスコンサート・ドライブインシアター) 964名		実施場所	ふれあい館
○月曜日～金曜日(木曜日を除く)“ちよこっとタイム”として、読み聞かせ・体操、手遊び・ふれあい遊び等を行い、子育て相談を実施。 212名		対象者	0歳～18歳までの児童とその家族
○西児童館クラブ(地域組織活動育成事業)では、サークル活動運営・入会に関する相談支援等を実施。	人	数	1,857名
○月1回の避難訓練(火災・地震・不審者対策) 39名 ○相談対応 63件			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
134 139	親と子の食事セミナー自然体験活動事業	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
子どもの栄養・食を通じた心の健全育成や、家族団らんの食事の楽しさ等を学ぶため、食事に関する講習会を行うとともに、親子や親同士の交流事業を実施しており、食の大切さを知ってもらい、生きる力を育むことを目的に実施した。	事業費	児童センター事業	
<利用者数>		実施日時	土曜日・長期休暇中
あぐりっこくらぶ 94名 たけのこ掘り 21名		実施場所	ふれあい館・ふれあい農園
		対象者	0歳～18歳までの児童とその家族
		人	数 115名
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
135	長期休暇等の児童館特別企画	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
長期休暇等の期間を活用し、地域の方を講師に招いたり、この時期にしかできない体験を行うことにより、感性を高め、仲間づくりや児童の健全な育成を図ることを目的に実施した。また、今年度から遊びの提供の場としてアウトリーチ(出張児童館)に取り組み、地域のボランティアとの協働により実施した。	事業費	児童センター事業	
<利用者数>		実施日時	休暇中
・出張児童館 7月21日(日) 野々島市民センター 69名 2月 1日(土) みどり館 163名		実施場所	ふれあい館
・調理活動 13名		対象者	0歳～18歳までの児童とその家族
・きんぎょすくいごっこ 27名		人	数 558名
・砂絵遊び 28名			
・かえっこあそび 258名(夏休み中)			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
136	児童福祉週間特別事業	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
児童福祉週間に伴い、児童の健全育成や親子・地域のふれあい交流の啓発を目的として開催。標語や来館者による子どもへのメッセージの掲示を行った。地域のボランティアの方と共に、ふれあい館玄関外に多くのこいのぼり掲揚を行った。	事業費	児童センター事業	
	実施日時	5月5日～11日	
	実施場所	ふれあい館	
	対象者	0歳～18歳までの児童とその家族	
	人 数		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
140	体力増進活動	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
運動やスポーツを通して心と身体の健康づくりや意欲向上を図り、児童やその家族が健康・体力活動に取り組むことによって、家庭での健康づくりを推進するために事業を実施している。	事業費	児童センター事業	
<利用者数>	実施日時	土曜日	
かけっこ教室 21名	実施場所	ふれあい館等	
トランポリン教室 56名	対象者	0歳～18歳までの児童とその家族	
	人 数	77名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
141	子育てサークル育成事業	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
子どもの社会性を育むための交流活動や保護者同士の情報交換、学習会、食育などを行う子育て中の親子が自主的に集まるグループ育成に努め、地域の「子育て力」を高め、共に育ち合う豊かな子育てを応援する事を目的として事業を実施した。活動が円滑に行われるため助成金の整備、場所の提供、活動内容の相談及び協力、会員の紹介等を行った。	事業費	各サークル助成金 60千円(共同募金)	
<利用実績>	対象者	3団体	
○アリスくらぶ(就学前親子) 遊びを通して親子で仲間作り。子育ての悩みや情報交換をしながら互いに育ちあう。	実施場所	ふれあい館	
○クッキングマム(就園前の親子と子育て中の親)食育を通して仲間作り	対象者	就学前親子	
○子育てサークル ファミリー(就学中の親子を中心に、様々な遊びを通して情報交換・仲間作りを行う。)	延べ参加数	955名	
○西児童館クラブ定例会議を1回実施			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
142 143	乍長児(小学生乍長児・中高生)等来館促進事業 (事業の内容、実績) 音楽やスポーツ等を通して、同世代の交流・情報交換ができるることを目的に居場所づくりを促進した。ぶちやんふれあい交流では、ぶちやんや保護者と関わり命の大切さや親への感謝、自己肯定感を高め将来の子育ての貴重な体験とし虐待予防につなげることを目的に開催した。今年度は講師を招いて「命の大切さ」について学ぶ機会とした。また、中高生の居場所づくりは音楽スペース開放を実施し、行事としてドラムレッスンを開催した。 <利用者数> 赤ちゃんふれあい交流体験 中高生 50名 中高生居場所づくり「奏」 8名	単年度	合志市受託事業 事業費 児童センター事業
		実施日時	中高生居場所作り 第3土曜日
		実施場所	このみ坂保育園
		対象者	小学年長児～ 高校生
		人 数	58名
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
150 151	ファミリーサポートセンター事業 コーディネーターおよびアドバイザーの設置 (事業の内容、実績) 核家族化や都市化の進展により、家族や現行の保育サービスでは応じきれない保育ニーズを補完し、仕事と育児の両立を支援するために会員登録制による組織化を行った。会員相互による育児の援助活動の調整等を行うコーディネーターの設置により、保育ニーズに合わせた協力会員のコーディネートを柔軟に対応し、市役所(子育て支援課・女性子ども支援課・保健師)、保育所や医療機関など子育て支援機関との連絡調整を行い、サポートセンター活動を展開した。また、南ヶ丘福祉支援センターでも登録・報告書の提出が可能なように対応した。 <活動時間> 6時～22時 <利用料金> 月～金 7時～20時 700円、 早朝・夜間・土・日・祝日800円 ※市内在住の方は市が半額助成 <広報> ファミサポ通信	継続	合志市受託事業 事業費 19,260千円
		実施日時	月曜日～土曜日 8時30分～17時30分
		実施場所	ふれあい館
		対象者	0歳～小学校6年生(障がいをもつ18歳)の保護者
		人 数	会員総数 1,665名



令和6年度 放課後児童健全育成事業(キッズクラブ)

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
145 147	ファミリーサポートセンター事業 会員登録及びサービス利用の促進	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
必要とする方に周知するため、保育所や市内医療機関にサービスの説明やチラシの設置協力を行った。	事 業 費	ファミリーサポートセンター事業	
また、産褥期や多胎児を育てる家庭の家事支援についての相談対応を継続し、育児不安に対応を行った。	実 施 日 時	活動時間 6時～22時	
<会員登録数> •利用会員1,151名 協力会員426名 兩方会員88人	実 施 場 所	ふれあい館	
<利用状況> •活動件数1,100件 活動時間 2,664時間 •月平均件数 92件	対 象 者	0歳～小学校6年生 (障がいをもつ18歳)	
<主な内容> •学校への送り 262件 •保護者講習会の参加や多胎児支援 249件 •保護者のリフレッシュ 105件	人 数	会員総数 1,665名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
144～ 148	ファミリーサポートセンター事業 会員養成講習会および交流会の開催	継続	合志市受託事業
<養成講座> ファミリーサポート協力会員養成講座、24時間以上(全11日間) 延べ受講者数149名 新規登録協力会員数13名	事 業 費	ファミリーサポートセンター事業	
<全体交流会> 会員の親交を深めるとともに、会員の情報交換の場を目的に開催した。 実施日時:令和7年2月9日(日) <u>参加総人数:101名</u>	実 施 日 時	全23日間	
参加者28組(大人36名/こども49名 計85名) 子育てサークル(クッキングマム 大人10名/こども6名) 内容)「ひとり劇じゅんこ+」(観劇)、会食、会員交流	実 施 場 所	ふれあい館	
	対 象 者	登録会員及び会員になりたい方	
	人 数	参加総数 250名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
149	緊急サポートネットワーク事業 深夜・お泊り支援の実施	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
ファミリーサポートでは対応できない お泊り保育を補うことで、より充実した援助活動を実施した。24時間対応携帯電話により緊急時の相談に対応した。	事 業 費	ファミリーサポートセンター事業	
<利用料金> 小学生 4,000円 3歳～就学前 5,000円 3歳未満 6,000円 ※市が半額助成、その他実費負担あり	実 施 日 時	20時～翌8時	
<会員登録数> ファミサポ登録数に準ずる	実 施 場 所	原則 協力会員宅	
<利用状況> 利用件数 2件(1世帯)	対 象 者	0歳～小学校6年生をもつ保護者	
	人 数	登録会員 1,665名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
149	緊急サポートネットワーク事業 病児預かり促進	継続	合志市受託事業
(事業の内容、実績)			
	ファミリーサポートでは対応できない病院受診・病児預かりを補うことで、より充実した援助活動を実施した。保育所・医療機関の協力もあり、スムーズに行うことができた。	事 業 費	ファミリーサポートセンター事業
<利用料金>	月～金 1,000円、土1,100円 (日・祝日の活動は原則として行わない) ※市が半額助成、その他実費負担あり	実 施 日 時	病児預かり7:30～20 病院受診9～18
<会員登録数>		実 施 場 所	原則協力会員宅
ファミサポ登録数に準ずる		対 象 者	0歳～小学校6年生をもつ保護者
<利用状況>	・緊急サポート活動 (病児預かり14件)	人 数	登録会員 1,665名
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
151-154	病児・病後児保育事業「すこやか」	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
	病中、または病気回復期にある子どもの預かり保育を行い、保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成及び資質の向上を目的に実施した。嘱託医の協力により、職員のスキルアップ研修実施や病状の変化を相談しながら保育を行った。預かりを通して、保護者に子育てや病気時の対応について助言し、病気の子どものお世話と仕事の両立をする保護者に寄り添う支援を行うことができた。感染防止の観点から1人1部屋の個別対応保育を継続した。また今年度部屋増築改修工事を行い、次年度の受け入れ強化に向け準備を行った。	事 業 費	病児保育事業 14,181千円
<実績者数>	3部屋(1人1部屋 定員6名)	実 施 日 時	月～金7:30～18:00 土曜日7:30～13:30
・総登録者数4,547名(新規登録 220名)・延利用数 438名(市外利用者71名)		実 施 場 所	ふれあい館
・利用世帯状況(課税222非課税0非課税ひとり親11生活保護0)		対 象 者	市内、熊本市在住、保護者が市内に勤務する (2ヶ月～小学3年生など)
・当日及び前日キャンセル 159名・基準に基づき利用不可191名		人 数	定員6名,利用総数 438名(内市外71名)
・開設日数293日(日・祝日、12/29～1/3は休日)			
※改修工事のため1/14～21休所、1/22～3/31すこやか1のみ受け入れ			
(利用料金/1日) 5時間未満は半額。			
課税世帯…2,000円 非課税世帯…1,000円			
非課税ひとり親世帯・生活保護世帯…無料 *減免は、証明書提出			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
155	月曜こども健康・育児相談	継続	独自事業
(事業の内容、実績)			
	子どもの健康や、育児に関する相談について、病児病後児担当の看護師またはこども支援センター保育士等が対応し、身近な相談窓口として育児不安の解消になるように寄り添った対応を心がけながら実施した。事前予約制を取り入れ、主に南ヶ丘福祉支援センターで実施。利用者の数も増加している。	事 業 費	病児保育事業
<相談内容>主なもの		実 施 日 時	毎週月曜日 10:00～11:20
・身体測定や発達等(言葉や発達遅延の悩み)に関する事		実 施 場 所	南ヶ丘福祉支援センター およびふれあい館
・離乳食に関する事(食事量・食事形態について)		対 象 者	全子育て世帯
・子どもの病気に関する事(アレルギーや皮膚トラブルの対応等)		人 数	34名
・便秘等排泄に関する事			
・睡眠、夜泣き、断乳に関する事、母親の体調に関する事			

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
156.157 159.160	キッズクラブの設置運営 (事業の内容、実績) 保護者が労働等により昼間家庭にいない児童を預かり、子育てと仕事の両立支援と児童の健全育成を図ることを目的に各学校で実施している学童クラブでは対応できない19時以降の利用が必要な児童を優先して実施した。家族状況が急遽変わり、支援が必要な児童についても迅速に対応した。令和5年度より、ICTサービス「コドモン」を導入。利用申請や連絡帳などはスマホから申請可能となった。保護者との連絡もとりやすくなり、良い意見もいただいている。夏休みに毎年実施している平和交流は、身近なアニメ等を用いて話をした後、実際に使われていた物を見たり当事者からの話を聞いたりしたこと、平和の大切さを学ぶ良い機会となつてゐる。また、安全性や感染症対策を徹底し、職員間で密な連携を図ることでコロナ禍前に行っていた交流の実施やイベント行事へ参加することができた。今年度より安全計画の策定が義務となり、事故防止や災害対応等に関する各種マニュアルを作成。コドモンにて保護者も閲覧できるようにした。計画にて定めている児童の引き渡し訓練を実施した。 <利用料> ・基本料金 3,000円 ・月曜日～金曜日 300円(軽食付) ・土曜日・長期休暇等 600円(軽食付) <利用状況> ・延利用者 7,170名(平日平均利用数29名) 開所日数 274日	継続	合志市受託事業
	事 業 費	放課後児童健全育成事業費 21,189千円	
	実 施 日 時	月～金 12時～20時 土 8時～19時 長期休暇 9時～20時 年間 274日開設	
	実 施 場 所	ふれあい館	
	対 象 者	西合志東小、西合志南小、 西合志中央小 1～6年生	
	人 数	(年度当初)定員44名 (年度末) 定員42名 延利用数 7,170名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
158 159	学童クラブ障がい児受入 (事業の内容、実績) 障がいのある子どもが、学童クラブを利用する機会を確保し、子ども同士が生活を通して共に成長できるよう職員配置を行い、保護者や関係機関と連携をとり支援を行つた。	継続	合志市受託事業
	事 業 費	障害児預かり事業 6,177千円	
	実 施 日 時	各学童クラブと同じ	
	実 施 場 所	各学童クラブと同じ	
	対 象 者	障がいがある児童	
	人 数	登録数 5名 延利用数668名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
156.157 159.160	第一小学校地域学童クラブ(くすの木クラブ)の設置運営 (事業の内容、実績) 保護者が労働等により昼間保育が出来ない児童を預かり、子育てと仕事の両立支援と児童の健全育成を図ることを目的に実施した。学校との連携を密に取り、情報共有に努めた。また、地域の中にある学童として子どもたちに意識させるために、隣接する公園の清掃や長期休暇時には公共施設の活用、調理体験や社協学童の交流等を行つた。 <利用料> ・通常月 7,000円 ・4、7、12月 8,000円 ・8月 10,000円 ・土曜利用料 1回600円 ・延長利用料 200円／1回 <利用状況> ・延べ利用者数 4,587名 (平日平均利用 18.8名) 開所日数 253日	継続	合志市受託事業
	事 業 費	放課後児童健全育成事業 1 2,674千円	
	実 施 日 時	月～金 12時～19時 土 8時～19時 長期休暇 8時～19時 年間 253日開設	
	実 施 場 所	立割老人憩いの家	
	対 象 者	西合志第一小1～6年生	
	人 数	(年度当初)定員26名 (年度末) 定員26名 延利用者数4,587名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
161	ひとり親家庭等日常生活支援事業	継続	合志市受託事業
162	「生活援助員派遣事業」「子育て支援員派遣事業」		
(事業内容)			
ひとり親家庭等が修学や疾病等の理由により一時的に家事、育児等の日常生活に支障が生じた場合に、家庭生活支援員が児童の世話、家事等日常生活の支援を行うことを目的に家庭生活支援員の調整を行い、ひとり親家庭等の生活の安定や自立を支援した。		事 業 費	事務費300円×日数 支援員活動費
※家庭生活支援員は熊本県家庭生活支援員養成講習会を修了したもので、生活援助員派遣はホームヘルパー3級以上の有資格者とする。及び、ファミリーサポート養成講座を受講したもの。		実 施 日 時	10月～3月
(利用実績)		実 施 場 所	利用者自宅
・10月～3月 利用日数 8日 利用時間 13.5時間 延べ利用人数 8人		対 象 者	児童を養育する母子・父子家庭及び寡
		利 用 者 数	8人 延べ利用数 8回
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
163	合志市子育て短期支援事業	継続	合志市受託事業
(事業内容)		事 業 費	実施要綱基準額による
保護者が仕事やその他の理由により夜間や休日に不在となる家庭において児童を養育することが困難となった場合や緊急の場合において、児童を保護し、食事等の提供。		実 施 日 時	必要時に市より依頼
(利用実績)		実 施 場 所	こども支援センター
令和6年度利用なし		対 象 者	保護者の仕事等により夜間等に不在
		利 用 者 数	利用なし

令和6年度 事業報告書

担当課	班
生活支援相談センター	生活支援班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 地域福祉権利擁護事業(県社協受託事業)、法人後見事業(独自事業)

- ・ 地域福祉権利擁護事業(地権)は、精神に障がいがある方が多く、対応数が大幅に増加している。
- ・ 地権から成年後見制度の移行は、法人後見運営委員会(専門職・健康福祉部長等)で適切に行つた。また、法人後見受任者支援は、専門職及び家庭裁判所の助言を受け実施した。

(2) 生活困窮者自立支援事業(市受託事業)

- ・ 経済的のみならず、病気や就労・居住、家族との関係や判断力が低下することによる権利擁護の相談など、生活に関する多岐にわたる相談に対応し、相談数も増加している。市の重層的支援体制実施計画の相談を広く受け止める役割として、業務にあたることができた。相談件数の増加は、物価高騰やコロナ特例貸付の返済猶予相談の影響があげられる。
- ・ 「生活費や食べるものが無い」「居所を退去しなければならない」「ライフラインが停止する」などの切迫した緊急性の高い相談に対して、迅速に伴走型の支援を実施した。
- ・ 生活困窮相談者に対する食料の確保や保管は、継続して市民や企業・関係機関の協力を得られた。また、市内法人の協力より、本人にあった就労内容を検討しながら、相談者7名(5名定着)が就労開始した。
- ・ 社会参加に向けた支援が必要な176名に対し、訪問や同行支援などの寄り添い型支援を実施した。その結果、転職を繰り返していた方やひきこもり状態にあった方のうち8名が就労定着した。また、就労準備支援、福祉サービス、医療機関などと連携し、生活面および社会面の自立支援を行つたが、複合的な課題を抱える方の継続支援が長期化し、相談対応に時間を要している。

(3) 生活福祉資金貸付(県社協委託)、福祉金庫貸付

- ・ 貸付の対象とならないことが多く、生活困窮自立相談員につないでいる。福祉金庫貸付は、自立相談員と連携して2件を貸付実施した。

(4) 新型コロナウィルス感染症特例貸付に関する償還業務

- ・ 償還期限を迎える借受人が多く、架電等で状況確認を行つた。償還が難しい方には、生活困窮自立相談員と連携しながら、意見書の提出を行い、償還猶予承認63件・償還免除16件が決定した。

2 業務を推進していく場合の課題

- (1) ひきこもり等の要因で、社会から孤立している方の相談対応中、精神的・身体的な緊急対応をせざる得ないこともあります、相談員の医療面に対する不安があげられる。
- (2) 新規相談数と長期化する継続相談数の増加に伴い、業務量は確実に増加している。ひきこもり支援事業として、次年度内容を拡充するため、相談員育成と業務の効率化。
- (3) 相談数増加による電話回線不足。

3 今後の方向性

- (1) 相談対応の増加に対しては、新規事業に取り組みながら、相談員に業務負担と相談者対応に影響が生じていないか確認しながら、業務分担や効率化に向けて協議する。
- (2) 社内重層会議や重層的支援体制のネットワークにより専門職や専門機関と連携した支援を強化する。
- (3) 本人の状態像に応じた適切な支援を行うため、業務に関するマニュアルや社会資源(公的福祉制度や地域資源など)の整理を行うことで、効率化を図る。
- (4) 新規事業も含め、相談場所の周知とその方法を検討する。
- (5) 電話回線や相談室などの設備面は、相談員同士が工夫を行なながら、対応を検討する。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
165～ 171	(委)生活困窮者自立相談支援事業	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
	経済的困窮のみならず、心身の問題、家庭の問題、就労の問題など複合的な課題に対して相談対応及び支援を行った。訪問(アウトリーチ)による対応を含め、自立支援計画(支援プラン)を作成し、法に基づく事業等(支援サービス)を活用し対応した。	根拠法	生活困窮者自立支援法
(実績)	・新規相談受付件数 393件(前年度365件) ・支援決定確認数 92件 ・評価実施件数 124件 ・相談援助数 7, 556件(前年度7, 191件) ・社労士相談 4件	実施日時	月曜日～金曜日 8:30～17:15
(法に基づく事業等の活用)	()は前年度	実施場所	ヴィーブル
	・居住確保給付金 3(6)件 ・就労準備支援事業 3(3)件 ・一時生活支援事業 1(2)件 ・子どもの学習生活支援事業 ・家計改善相談支援事業 77(87)件 ・就労支援 30(41)件	対象者	合志市民
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
170	緊急食糧支援業務	継続	その他 独自
(事業内容)			
	緊急対応が必要な方に各機関に協力を得ながら実施した。 ○生計困難者レスキュー事業(熊本県社会福祉法人経営者協議会社会貢献事業)、現行制度で対応が困難な方の支援(ライフライン確保、食糧支援等) ・支援回数 8件(前年度4件) ○市民・団体(日本非常食推進機構・子ども食堂・セブンイレブン・母子会など)の協力によりいただいた食料等を現物給付で支援 ・食糧支援 239回(前年度278回)・物品支援 95回 ・給付内容: 米、レトルト副菜、缶詰、日用品、衣類など ・生活品貸出 炊飯器など 4件(前年度7件) ○対人直接支援(熊本県生活困窮者に対する緊急・一時支援事業) ・支援数 16件(ライフライン確保等) ・フードパンツリー(食糧・生活用品配布) 45世帯配布(42世帯) ○共同募金緊急支援 11件	支援日	随時
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
175 177	相談支援、支援計画の作成 福祉サービス利用援助、日常生活金銭管理	継続	県社協委託事業 独自
(事業内容)	認知症や知的障がい、精神障がいなど判断能力が低下されている方を対象に利用者との契約に基づき、地域で安心して暮らせるよう福祉サービス利用援助を中心として、支援計画に沿った日常的な金銭管理サービス及び重要書類の預かり等の権利擁護支援を実施。 緊急的に支援が必要な方の本会預かりサービス事業も実施。	根拠法	社会福祉法第2条 第3項
	令和6年度	前年度	
相談援助件数	4, 035件	3, 296件	実施日時
新規契約締結件数	2件	9件	実施場所
新規相談件数	17件	13件	実施機関
終了件数	4件	4件	
社協預かりサービス数	2名	0名	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態										
176	生活支援員の指導及び監督(地域福祉権利擁護事業) 認知症や知的障がい、精神障がいなど判断能力が低下されている方を対象に、利用者との契約に基づき、福祉サービス利用援助において、利用者宅を生活支援員と同行訪問した。	継続	県社協委託事業										
	(利用者実人数) R7.3月末現在	根 抠 法	社会福祉法第2条 第3項										
	<table border="1"> <tr> <th>認知症</th><th>知的障害</th><th>精神障害</th><th>その他</th><th>合計</th></tr> <tr> <td>6</td><td>1</td><td>6</td><td>1</td><td>14</td></tr> </table>	認知症	知的障害	精神障害	その他	合計	6	1	6	1	14	実 施 日 時	通年
認知症	知的障害	精神障害	その他	合計									
6	1	6	1	14									
	(市民サポーター) ・生活支援員 5人:生活支援サポーター受講修了者4名 市民後見人養成講座修了者1名	実 施 場 所	ヴィーブル										
	(研修等) ・支援員研修の実施(職員合同) 2回	実 施 機 関	本会										
		人 数	5名										
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態										
178～ 181	関係機関との協働研究及び委員会の運営 委員会による研究と連携ネットワーク	継続	独自										
○法人後見運営委員会設置 受任の適否の判断、後見業務の指導を行い、適正な後見業務を担保することを目的に設置	根 抠 法	民法843条											
・委員:弁護士・司法書士・社会福祉士・市福祉部長・社協常務理事 ・委員会開催 年2回実施 ・受任及び後見申立検討や受任している方の支援の助言・指導	実 施 日 時	通年											
○市民後見人養成研修終了者1名を生活支援員として、同行支援や研修等のフォローアップを行った。	実 施 場 所	ヴィーブル											
	実 施 機 関	本会											
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態										
178 179	成年後見等受任 任意後見人契約 後見人等との相談及び支援 市民向け相談及び周知 制度外支援(死後事務等)の研究	継続	独自										
認知症高齢者、知的障がい者及び精神障がい者など意思決定が困難な方の判断能力を補うため、法人が成年後見人、保佐人または補助人となることにより財産管理、身上保護を行い、権利を擁護することを目的に実施。法定後見人等受任については、法人成年後見事業運営委員会で協議し、決定を行う。	根 抠 法	民法843条											
○法人後見事業 ・受任3件(後見類型1名 保佐類型2名)	実 施 日 時	通年											
○成年後見相談 8人 ・成年後見制度についての相談対応を行い、必要時には関係機関へつなぎ支援した。	実 施 場 所	ヴィーブル											
※任意後見人契約及び制度外支援(死後事務等)の研究については、専門職からの助言を受けながら検討する。	実 施 機 関	本会											

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																														
172	生活福祉資金貸付事務事業 (事業内容) 低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支え、在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的に実施 (貸付対象) 低所得世帯(市民税非課税程度)、高齢者世帯、障がい者世帯 (実績) 上段:相談件数、下段:貸付決定	継続 相談日 相談時間 対象者	県社協受託事業 月曜～金曜 8:30～17:30 低所得世帯 障がい者世帯等																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>母子等</th><th>障がい</th><th>失業</th><th>借金</th><th>生業</th><th>低所得</th><th>不動産担保</th><th>生活保護</th><th>コロナ特例貸付</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>42</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>43</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>92</td></tr> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	母子等	障がい	失業	借金	生業	低所得	不動産担保	生活保護	コロナ特例貸付	合計	1	42	3	1	0	43	2	3	0	92	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
母子等	障がい	失業	借金	生業	低所得	不動産担保	生活保護	コロナ特例貸付	合計																								
1	42	3	1	0	43	2	3	0	92																								
0	1	0	0	0	0	0	0	0	1																								
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																														
173	新型コロナウイルス感染症特例貸付債権管理業務 (事業内容) 新型コロナウイルス感染症により生活福祉資金特例貸付を受けた方の貸付終了後の生活再建を目的に生活状況の把握と償還に向けた相談支援体制を整える。 (対象者) 新型コロナウイルス感染症特例貸付滞納者及び猶予者 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">県社協データより</th><th colspan="3">借受人</th></tr> <tr> <th>緊急小口</th><th>総合支援</th><th>猶予</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024.4時点</td><td>231</td><td>326</td><td>24</td></tr> <tr> <td>2025.2時点</td><td>141</td><td>250</td><td>48</td></tr> </tbody> </table> (実績) 対応数336件(架電176 受電62 来訪9 その他89) ・猶予等相談者実数 41人(猶予承認 63件、免除決定16件) 生活困窮者自立相談支援事業と連携を行い、36人の意見書を提出した。	県社協データより	借受人			緊急小口	総合支援	猶予	2024.4時点	231	326	24	2025.2時点	141	250	48	継続 相談日 相談時間 対象者	県社協受託事業 月曜～金曜 8:30～17:30 特例貸付借入者															
県社協データより	借受人																																
	緊急小口	総合支援	猶予																														
2024.4時点	231	326	24																														
2025.2時点	141	250	48																														
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																														
174	福祉金庫貸付事業 (事業内容) 生活困窮等の理由により、緊急一時的に資金を必要とする者に貸付けを行うことで、当該世帯の生活の自立更生を図ることを目的に実施 (貸付対象) 本市に1年以上居住の生活困窮で一時的に貸付を要する状態にある方 (貸付実績) ・令和6度 2件(前年度7件) (返済状況) ・令和6年度 返済滞納なし(前年度なし)	継続 相談日 相談時間 対象者 限度額	独自事業 月曜～金曜 8:30～17:30 低所得世帯 10万円																														

令和6年度 事業報告書

担当課	班
介護支援相談センター	ケアプランセンター班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 指定居宅介護支援事業(介護保険事業)

加齢や疾病による心身の機能低下から不安定な生活を送る方々に対し、指定居宅サービス等の紹介を行ない一人ひとりの意向に寄り添いながら支援を行った。また、生活困窮や虐待を受けた方に対し、安心サポート合志や地域包括支援センター及びサブセンター、民生委員等地域の方々と連携を図り、可能な限り利用者が安全で安定した生活が送れるように、チームでの支援を行うことができた。総合事業においては、インフォーマルサービス等の情報収集と導入を行い、利用者の有する能力を発揮できるケアプランを作成し、他機関多職種との連携に努めながら目標達成に向かうことで、安定した生活環境が確保でき、重度化防止もできた。また、外部研修や他事業所との事例検討会などに積極的に参加しケアマネジメントの質の向上に努めるとともに、地域医療連絡会などへの参加を通じ医療機関との連携を図ることができた。

介護支援専門員1名増員で事業を行い新規受け入れを積極的に行ってはいたが、入院や入所等で継続利用に繋がらず、想定より実績が下回った。

(2) 福祉支援センター事業

当事業所は当会独自事業である福祉支援センター事業(介護相談・福祉用具貸出)も兼務しており、合志市的一般市民の方々からの相談等に迅速に対応し、介護保険事業に留まることなく福祉相談の場としても機能しながら適切な支援へスムーズに繋ぐことができた。

2 業務を推進していく場合の課題

- (1) 福祉業界の人材不足により、利用者の意向に対応できない状況が度々みられるようになっている。施設環境は整うが専門職等の人員不足により閉所、休業、縮小を余儀なくされる事業所も多く、受け入れ先を探すこと苦慮する状況も続いている。
- (2) 地域福祉を主力とする社会福祉協議会が運営するケアプランセンターであるため、住民の方からの直接の依頼や民生委員からの依頼、包括支援センターから課題を抱えた方の対応依頼が多い。地域の方の安心な生活環境を確保するために地域の方々との連携を強化し続ける必要がある。
- (3) 社会福祉協議会は単なる経営事業としてではなく、地域福祉の視点に立った事業所の運営が求められている。災害や感染症拡大時などの支援方法についても更に検討して行く必要がある。
- (4) 資格保持者の確保が困難となっているため、社協内においても資格取得への意欲が高まる発信に心掛ける。

3 今後の方向性

- (1) インフォーマルサービスを含む地域の社会資源について、利用者へ情報提供を適宜行うことで社協のケアプランセンター(地域福祉を目的とした介護事業)の特色を発揮し続けられるよう努める。また、地域資源の創造に寄与できるよう活動を行う。
- (2) 利用者の意欲、能力を十分活用し、自立支援に向けたケアプランの内容充実を図り続ける。
- (3) 地域包括ケアの一員として行政や地域包括支援センター、各種団体(民児協等)との連携強化を図り、併せて社内他課と連携、協働しながら総合的な支援を提供し続けていく。
- (4) 支援が困難な事例に対しては、安心サポート合志や地域包括支援センター等と連携、粘り強い対応を行なっていくことで利用者の生活の質の向上を図り続ける。
- (5) 合志市全域をスムーズに支援できる体制作り(拠点整備等)の検討を行う。
- (6) ICT化により、業務の改善(スピーディーな対応、事務処理効率の向上、負担軽減等)に努める。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																
183	指定居宅介護支援事業	継続	介護保険事業																
184	介護予防、介護予防ケアマネジメント事業																		
(事業の内容)	要介護・要支援認定者に対して自立支援や介護予防を目的に介護保険サービスやインフォーマルサービス等の調整、ケアプラン作成、サービス利用に係る給付管理・請求等を利用者に代わって実施。土日祝や夜間など営業時間外については社用携帯を使用し、24時間体制で相談やサービス調整などの支援を実施。																		
(実績)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員常勤換算数</td><td>5.5名</td></tr> <tr> <td>要介護利用者数(年間)</td><td>1796名</td></tr> <tr> <td>要支援利用者数(年間)</td><td>111名</td></tr> <tr> <td>月平均利用者数</td><td>158.9名</td></tr> <tr> <td>月平均担当者数(要介護)</td><td>27.2名/CM</td></tr> <tr> <td>月平均担当者数(要支援)1/3換算</td><td>0.6名/CM</td></tr> <tr> <td>月平均合計担当者数</td><td>27.8名/CM</td></tr> </tbody> </table>	項目	人数	介護支援専門員常勤換算数	5.5名	要介護利用者数(年間)	1796名	要支援利用者数(年間)	111名	月平均利用者数	158.9名	月平均担当者数(要介護)	27.2名/CM	月平均担当者数(要支援)1/3換算	0.6名/CM	月平均合計担当者数	27.8名/CM		
項目	人数																		
介護支援専門員常勤換算数	5.5名																		
要介護利用者数(年間)	1796名																		
要支援利用者数(年間)	111名																		
月平均利用者数	158.9名																		
月平均担当者数(要介護)	27.2名/CM																		
月平均担当者数(要支援)1/3換算	0.6名/CM																		
月平均合計担当者数	27.8名/CM																		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																
185	介護認定訪問調査事業	継続	合志市受託事業																
(事業の内容)	合志市からの委託を受けて、要支援認定者の更新時訪問調査を実施。認定者数等の状況に応じて委託依頼が入るため不定期の実施となっている。 ※本年度は市からの委託依頼がなかった為実績なし																		
		営業日	月曜日から金曜日																
		営業時間	8:30～17:30																
		休日	土・日・祝祭日 12/29～1/3																
		対象者	要介護・要支援認定者																
		月担当上限数	35人／CM																

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
186	介護保険代行申請事業	継続	独自事業
(実績)			
来館及び訪問	電話相談	計	
20件	97件	117件	
相談区分	内訳	件数	
居宅介護支援	居宅依頼	70件	
	介護保険申請代行	5件	
	福祉用具について	15件	
連絡調整活動	他事業所の紹介	7件	
	包括への情報提供	15件	
その他		5件	
合 計		117件	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
187	福祉用具貸出事業	継続	独自事業
(事業の内容)			
合志市民を対象に原則2週間を目安に福祉用具の貸出しを実施。介護保険等のサービスに該当する場合は原則貸出不可。ただし介護認定申請中でサービスをすぐに利用することができないなどの事情がある場合は貸出を実施。			
(実績)			
項目	用具数		
車いす(介助用)	46件		
車いす(自走用)	131件		
トイレ用具(ポータブルトイレ)	10件		
入浴用具(浴槽台、シャワーベース)	14件		
杖、松葉杖	5件		
合計	206件		

令和6年度 事業報告書

担当課	班
介護支援相談センター	サブセンターふれあい館

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 総合相談支援事業

独居や高齢者世帯、障がいを持つ方や子育て世代との同居など、さまざまな形態の中で様々な課題を持ち生活する方へ、できる限り住み慣れた地域でその人らしい生活を安心して継続出来るように寄り添い支援した。

(2) 権利擁護業務(成年後見・虐待・消費者被害)

日常生活の中で身上管理や金銭管理などの必要性を確認し、成年後見制度活用に繋げ、また、虐待者・被虐待者双方に対し、生活への基盤を整え、安心・安全な環境確保のために支援した。

消費者課題に関しては、発見し次第、地域や事業所等に周知し被害拡大予防に努めた。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメントの支援

高齢者が可能な限り自らの意志に基づき、機能の低下予防と機能の維持向上に向け、その有する能力に応じた質の高い生活が送れるように支援調整を行った。

また、介護支援専門員に対しケアプランの確認を行い、その人らしい生活が送れるような目標設定やその達成、及び困難な対応への助言や指導を行った。

(4) 地域ケア会議

包括的・継続的ケアマネジメントの為に、自立支援を目的とした会議へ参加し、理学療法士、薬剤師、栄養士、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員、行政(介護保険班)、民生委員等各専門職からの意見を取りまとめ、個人、及び地域課題の解決に努めた。

(5) サービス判定会議

合志市の高齢者福祉事業サービスの申請者に対し、必要性を審査する会議へ参加し、専門職としての意見を述べた。

2 業務を推進していく場合の課題

(1) 居宅支援事業所紹介では、個々の個性に応じた事業所の案内を行いたいが、人材不足を理由に受け入れなく、サービス事業所においても人材不足から閉所する事業所もあり、利用先変更せざるを得ない状況もあった。

(2) 福祉の担い手不足に伴い、地域資源(インフォーマルサービス)の充実が必要である。

(3) ケアプランデータ連携システムの活用が推奨されるが、地域における他事業所の環境は整っておらず活用には至らない。

3 今後の方針

(1) 利用者の意欲、能力を十分發揮し、自立支援に向けた介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの内容充実を図る。

(2) 地域包括ケアチームの一員として行政や地域の各団体(民児協等)との連携強化を図り、協働しながら総合的な支援を提供していく。

(3) 大きな課題を抱えた事例に対しては、地域包括支援センター、安心サポート合志等と連携を強化し利用者の生活の質の向上を図る。

(4) ICTの活用により、早急な課題解決や業務の負担軽減を図る。

番号	事業の名称			新規・継続	事業形態																				
16	合志市地域包括支援センターへの専門職員の出向			継続	合志市受託事業																				
地域で暮らす高齢者の方等に対し、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支える窓口である地域包括支援センターへ3名の職員を出向。			実施日時	月～金 8:30～17:15																					
地域住民や各事業所等、多種多様の方々と連携し、地域課題解決に向け対応している。			職員数	3名																					
<table border="1"> <tr> <th>主任介護支援専門員</th> <th>社会福祉士</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>1名</td> <td>2名</td> <td>3名</td> </tr> </table>			主任介護支援専門員	社会福祉士	合計	1名	2名	3名	派遣先	地域包括支援センター															
主任介護支援専門員	社会福祉士	合計																							
1名	2名	3名																							
			事業費	14, 596千円																					
番号	事業の名称			新規・継続	事業形態																				
182	地域包括支援センターサブセンター			継続	合志市受託事業																				
西部地区高齢者の相談窓口として開設し4年経過。社会福祉協議内に開設してある事もあり、東部地区の方からの相談もある。			実施日時	月～金 8:30～17:15																					
<table border="1"> <tr> <th>主任介護支援専門員</th> <th>社会福祉士</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>1名</td> <td>1名</td> <td>2名</td> </tr> </table>			主任介護支援専門員	社会福祉士	合計	1名	1名	2名	職員数	2名															
主任介護支援専門員	社会福祉士	合計																							
1名	1名	2名																							
身心機能低下や生活困窮に伴う相談のほか、高齢者虐待に関する相談件数の増加がみられている。			対象者	高齢者及び 2号被保険者																					
社会的に複雑化、複合化した課題を持つご家庭もあるため、他職種との連携強化とともに、地域の方々との関係構築を続け、早期に課題解決できるように努めている。			事業費	12, 358千円																					
<p>【年間相談件数】</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>電話</th> <th>来所</th> <th>訪問</th> </tr> <tr> <td>上半期(件)</td> <td>1, 767</td> <td>150</td> <td>810</td> </tr> <tr> <td>下半期(件)</td> <td>1, 432</td> <td>177</td> <td>727</td> </tr> </table> <p>要支援認定者や事業対象者に対して自立支援や介護予防を目的にケアプラン作成、サービス利用に係る給付管理等を実施している。</p>							電話	来所	訪問	上半期(件)	1, 767	150	810	下半期(件)	1, 432	177	727								
	電話	来所	訪問																						
上半期(件)	1, 767	150	810																						
下半期(件)	1, 432	177	727																						
<p>【事業種別月平均件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">総合事業</th> <th colspan="2">介護保険</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <th>通所 A</th> <th>通所 C</th> <th>訪問 A</th> <th>訪問 C</th> <th>要支援1</th> <th>要支援2</th> <th rowspan="2">8 1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 8</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1 4</td> <td>3 4</td> </tr> </tbody> </table> <p>身心機能の低下予防と安定した生活に向けた支援に心掛けている。</p>						総合事業				介護保険		合計	通所 A	通所 C	訪問 A	訪問 C	要支援1	要支援2	8 1	1 8	5	9	1	1 4	3 4
総合事業				介護保険		合計																			
通所 A	通所 C	訪問 A	訪問 C	要支援1	要支援2	8 1																			
1 8	5	9	1	1 4	3 4																				

令和6年度 事業報告書

担当課	班
介護サービス課	デイサービスセンター班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

通所サービスの営業では、感染対策を行いながら、筋力、認知機能の低下予防に努め、利用中は適宜検温と体調管理を行い安全、安心して利用できるようサービス提供に努めた。

(1) 感染症対策。

- ① 感染予防対策として、各所に消毒液設置を行い、利用者・職員共にマスク着用の徹底、一日2回の検温、手指消毒を実施した。デイホール全域の椅子、テーブル、手すり、福祉用具等の消毒、送迎車も使用後すぐに車内消毒を実施した。今後もすべての対策を継続していく。
- ② デイホール及び食堂ホール内の密集を防ぐ為、介護保険利用者(含む生活介護利用者)と第一号利用者とは活動エリアを分けて事業を実施した。今後も利用者数に応じて継続していく。
- ③ 利用者、職員のコロナウイルス、インフルエンザの感染はあったものの営業を継続することができた。

(2) 指定第一号通所事業:要支援認定者

- ① 利用日を週2日～変更し、前年度に比べ一日平均人数は1.1人増加し、活性化を図ることができた。
- ② 利用者、職員のコロナウイルス、インフルエンザの感染はあったものの営業も継続でき、初詣への外出も実施することができた。

(3) 指定通所介護事業:要介護認定者

- ① 利用者、職員のコロナウイルス、インフルエンザの感染はあったものの営業も継続でき、初詣、花見ドライブへの外出も実施することができた。
- ② 関係機関との連携が取れたことによる、新規利用者の増加につながった。
- ③ 主に独居高齢者のための延長サービスに代わる夕食弁当持ち帰りは継続中。服薬忘れを防ぐ為、配薬カレンダーの確認や声掛けも送迎時に支援を実施。介護エクササイズを開始に伴い、参加される方も増え、機能の維持向上へつながった。

(4) 生活介護事業:障害福祉サービスの基準該当サービス

- ① 今年度は新規の契約はなかったものの継続して利用することができた。

(5) 通所型サービスA:合志市委託事業(栄市民センターみどり館にて実施)

- ① 新規利用者の獲得をするため包括支援センターと連携を図ったが、利用者増とはならなかった。
- ② 利用者のコロナウイルス、インフルエンザの感染はあったものの、営業休止になることはなく、自立支援の一環として調理実習や買い物の外出もできた。

2 業務を推進していく場合の課題

- (1) 年末年始や祝日といった休日の利用ニーズに対応する専門職の確保と採算性。
- (2) 通所介護事業を継続していくための介護職員の高齢化に伴う若い職員の確保および育成。
- (3) 介護の重度化や認知症、医療ニーズの高い方の受入れを見据えた職員の質の向上と看護師を中心とした緊急時や看取りの体制整備。
- (4) 業務の効率化を図るため、ICTの整備を加速させ、業務中の職員の連携を円滑化するため、補助金を活用しヘッドセット等を導入し、効率化を図る。

3 今後の方針

- (1) 法改正に伴う加算関係の変更に対応する為の研鑽を行い、更なる加算取得と支援内容の向上を目指す。
- (2) 在宅生活継続と心身機能維持のためにも通所サービスの必要性は依然高いと考えられるため、感染予防対策の徹底と安定した事業継続を図っていく。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態								
188	介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービスA(みどり館)	継続	合志市受託事業								
(事業の内容)											
営業日は水曜・木曜・金曜。介護予防を目的に運動指導や栄養、口腔指導、認知症予防の脳トレ、レクリエーションを通して楽しみとなる趣味活動を実施。コロナ禍の中、毎回の検温や手洗い・消毒など感染予防対策を徹底し、休止することなく、季節ごとの行事や創作活動、買い物へ外出も行うこともできた。今後も感染対策は継続していく。要支援の利用者の増加も増えており、状態の観察を継続し、各部署への連携を図っていく。今後も利用者増へ働きかけていく。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th><th>年間利用数</th><th>開設日</th><th>1日平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通所型A</td><td>951人</td><td>148日</td><td>6.4人</td></tr> </tbody> </table>				内容	年間利用数	開設日	1日平均	通所型A	951人	148日	6.4人
内容	年間利用数	開設日	1日平均								
通所型A	951人	148日	6.4人								
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態								
189	総合事業:第1号通所事業(ふれあい館)	継続	介護保険事業								
(事業内容)											
要支援1, 2の方を対象に、介護予防・日常生活の自立を目的に支援を行った。介護予防の観点から、運動機能向上・口腔機能向上・認知症予防・低栄養の予防を目的に講話を行った。コロナ禍の中、毎回の検温や手洗い・消毒など感染予防対策を徹底し休止することなく、季節ごとの行事や創作活動を行うこともできた。今後も感染対策は継続していく。運動や口腔ケアや脳トレを自宅でも取り組めるように元気積立帳を工夫し、介護予防への取り組みの強化を図り、また創作活動にも力を入れ、機能低下防止に努めた。一日の利用人数の減少により、利用日を火、金曜日へ変更し、一日の利用人数の増加により活性化を図ることが出来た。今年度は、要介護へ移行される方はなく、今後も機能維持へ努めていく。											
利用実人数(令和6年度実績)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開設日数</th><th>延べ人数</th><th>一日平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99日</td><td>586人</td><td>5.9人</td></tr> </tbody> </table>				開設日数	延べ人数	一日平均	99日	586人	5.9人		
開設日数	延べ人数	一日平均									
99日	586人	5.9人									
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態								
190	指定通所介護事業(ふれあい館)	継続	介護保険事業								
(事業内容)											
要介護1~5の方を対象に、自立支援を基本とし、家族支援を視野に入れサービスを行った。科学的介護加算、ADL維持加算にて、運動、訓練の充実を図り、介護エクササイズも継続し、楽しみながら参加される方も増え、機能維持だけでなく、向上した方も多く見られた。毎回の検温や手洗い・消毒など感染予防対策を徹底しながら、コロナウイルスの5類以降により、外出行事や交流行事を行うことができた。利用者の潜在能力を引き出すべくアプローチをおこない、またクラブ活動を定期的に開催し、目標を持ち、活気のある充実した時間を過ごしていただくよう配慮を行った。											

190	(続き) 指定通所介護事業(ふれあい館)その2	継続	その他の事業			
	また、お一人お一人に寄り添い、最期の時までデイサービスに利用して頂き、断らない介護をもとに、重度の認知症の方も積極的に受け入れ又、延長サービスに代わる夕食弁当の提供を継続することで栄養維持を行うことが出来た。夕食弁当サービス(209)件。関連事業所との連携を図り、利用者獲得をすることができ新規利用者の増加へつながった。新規利用者23名。今年度は感染拡大による休止はなかったが、今後も感染対策を徹底し継続していく。					
	・介護度別利用実人数(今年度実績)1日平均利用者数:24.9人 開設日数308日、延べ回数7655回					
	介護1 289人	介護2 305人	介護3 162人	介護4 49人	介護5 10人	合計 815人
191	基準該当生活介護サービス(ふれあい館)	継続	その他の事業			
(事業内容) 入浴や排泄、食事等の介護や、創作活動、レクリエーションを通して、他者との交流の機会を提供した。自立した生活や社会生活を営むことができるよう、生活能力の向上の為に必要なリハビリを個別に実施した。 (実績)		営業日	月曜日～土曜日			
		営業時間	9:30～15:00 9:30～16:30			
		休日	日曜日 12/29～1/3			
登録人数 2人		対象者	障害手帳をお持ちの方 5人以内 (合計40人含む通所介護、 第一号通所)			
年間利用回数 206回		開設日 308日	1日平均 0.67人			

「ふれあい館デイ夏祭り」
ふれあい館デイサービスご利用者と
放課後等デイサービス利用児の交流



令和6年度 事業報告書

担当課	班
介護サービス課	ヘルパーステーション班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 指定訪問介護、予防訪問介護事業

当事業所においても社会的課題となっている訪問介護員の高年齢化による慢性的な扱い手不足にて、新規依頼を受けることに支障が出ている。しかし、常勤職員の稼働率上昇と介護職員の処遇改善加算の改定により収益は増加に転じた。要介護認定者には認知機能低下をきたしている方が多いため、これまで同様に見守り的身体介護の提供を行った。この認知機能低下の方に対して、自立支援・重度化防止をケアの基軸とした関わりから病状の進行を防ぐことに努めた。R5年度までは要支援認定者を支援する総合事業の生活支援が多い状況であったが、R6年度は要介護認定者の支援依頼が増え、身体介護である入浴介助も若干増えたことで収益増につながった。

(2) 訪問型サービスA事業(市委託事業)

元気応援センター新規登録1名あり、ヘルパー2級資格保持者でもあることから訪問介護事業の支援へつながり若干のヘルパー不足の解消につながった。認知機能低下の方への支援では、専門職の支援の必要性が高く、資格保持者が訪問型サービスA事業で稼働することはスムーズな支援となり自立支援につながっていると思われる。

(3) 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業(市委託事業) 今年度利用実績なし。

(4) 有償ヘルパーサービス事業(介護 独自事業)

介護保険制度上の支援内容に該当せず、また代替サービスもない当事業所利用者に対し31件の支援を実施した。昨年度に比べ減少しているが、地域資源の拡大により需要が減ったと考える。

(5) 障がい福祉サービス事業(居宅介護・重度訪問介護・同行援護)

長年支援してきた知的障害や難病の方が施設入所となり居宅介護の支援時間数減であった。主たる介護者の高齢化による介護力低下となり、重度訪問介護への切り替えと支援回数増加があった。

同行援護では朝の散歩や公共交通機関を利用しての買い物やイベント参加への介助依頼あり。

(6) 移動支援事業(地域生活支援事業・市委託事業)

身体障がいや自閉症の方の余暇活動のための外出支援や、仕事から帰宅後の散歩支援があり、他部署の職員も登録ヘルパーとして休日に稼働したこと、利用者のQOLの向上が図れた。

(7) 有償ヘルパーサービス事業(障がい 独自事業)

受診の際、通院往復と直接の介助は居宅介護となるが、診察室の介助は有償ヘルパーで行う事で途切れのない支援ができた。

2 業務を推進していく場合の課題

登録ヘルパーの約半数が65歳以上であるため、新たな支援の受入困難な状況は続いている。特に報酬に大きく影響する身体介護の受け入れが容易にできない。新規依頼もヘルパー不足で時間調整できず、お断りするケースもあった。

3 今後の方向性

- 自立支援と重度化防止のサービス提供を見据え、自主研修会などを通じて各ヘルパーへの指導を行い、更なる質の向上に努めていく。
- 障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行や併用の方が増えているため、双方の連携を強化し充実した支援に努めていく。
- 他専門職や地域住民との連携を更に強化推進し、在宅生活の継続を支えていく。
- 在宅支援の要となるヘルパーの確保と新人ヘルパーの育成に力を入れていく。

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態																												
192-196	訪問介護事業	継続	介護保険事業																												
(事業内容)																															
	在宅生活に支障がある要介護(要支援)認定者、生活機能の衰えを早期に発見する基本チェックリスト該当者や有償ホームヘルプサービス事業(独自事業)を必要とする高齢者へ訪問介護サービスを提供。																														
	<input type="radio"/> 指定訪問介護(要介護1~5) <input type="radio"/> 予防訪問介護(要支援1、2) <input type="radio"/> 訪問型サービスA <input type="radio"/> 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業(市委託) <input type="radio"/> 有償ホームヘルプサービス事業(独自サービス)																														
(実績)																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績数</th> <th>サービス別</th> <th>延べ利用者数(人)</th> <th>訪問件数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">介護保険</td> <td>介護</td> <td>785</td> <td>6,372</td> </tr> <tr> <td>予防(総合)</td> <td>480</td> <td>2,466</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">市委託事業</td> <td>訪問型サービスA</td> <td>217</td> <td>829</td> </tr> <tr> <td>やすらぎ</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">独自事業</td> <td>有償ヘルパー</td> <td>26</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,508</td> <td>9,698</td> </tr> </tbody> </table>	実績数	サービス別	延べ利用者数(人)	訪問件数(件)	介護保険	介護	785	6,372	予防(総合)	480	2,466	市委託事業	訪問型サービスA	217	829	やすらぎ	0	0	独自事業	有償ヘルパー	26	31	合計	1,508	9,698					
実績数	サービス別	延べ利用者数(人)	訪問件数(件)																												
介護保険	介護	785	6,372																												
	予防(総合)	480	2,466																												
市委託事業	訪問型サービスA	217	829																												
	やすらぎ	0	0																												
独自事業	有償ヘルパー	26	31																												
	合計	1,508	9,698																												
(新規利用者数)																															
	○新規利用者 43人、○中止 25人																														
(事業内容)																															
	心身に障害を持った方へ家事援助、身体介護、通院等介助を提供する居宅介護。重度の障害を持ち常に介護を必要とする方への重度訪問介護。視力障害の方の外出を支援する同行援護。障害のある方の余暇活動および社会参加のための移動支援事業(市委託)。有償ホームヘルプサービス事業(独自事業)等の訪問サービスを提供。																														
(実績)																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>サービス別</th> <th>延べ利用者数(人)</th> <th>総利用時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居宅介護等</td> <td>身体介護・家事援助</td> <td>470</td> <td>6,425</td> </tr> <tr> <td>重度訪問介護</td> <td></td> <td>40</td> <td>1,560</td> </tr> <tr> <td>同行援護</td> <td></td> <td>17</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>委託事業</td> <td>移動支援</td> <td>53</td> <td>328</td> </tr> <tr> <td>独自事業</td> <td>有償ヘルパー</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>583</td> <td>8,383</td> </tr> </tbody> </table>	項目	サービス別	延べ利用者数(人)	総利用時間数	居宅介護等	身体介護・家事援助	470	6,425	重度訪問介護		40	1,560	同行援護		17	68	委託事業	移動支援	53	328	独自事業	有償ヘルパー	3	2		合計	583	8,383		
項目	サービス別	延べ利用者数(人)	総利用時間数																												
居宅介護等	身体介護・家事援助	470	6,425																												
重度訪問介護		40	1,560																												
同行援護		17	68																												
委託事業	移動支援	53	328																												
独自事業	有償ヘルパー	3	2																												
	合計	583	8,383																												
(新規利用者数)																															
	○新規利用者 2人、○中止 2人																														

令和6年度 事業報告書

担当課	班
障がい者支援センター れんがの家課	障がい相談支援班・児童発達支援班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

【相談支援事業(指定特定障がい者(児)相談・地域支援・合志市相談支援)】

- 令和6年度報酬改定により、支援の質の高い相談支援事業所の整備促進のための要件が追加された。具体的には、他機関連携の為の各種加算の見直し、更に、医療的ケア、行動障害、精神障害者等の専門的支援体制を整え、計画相談支援を行う事への評価である。れんがの家としても、加算要件である専門研修を受講した相談員を配置することで、より質の高い支援、加算の拡充につなげた。
- 高齢、子ども、生活困窮、地域など社協内の相談部門が横断的に支援を実現している強みを持って、地域の重層的なネットワークづくりを踏まえ、行政と共に令和7年度基幹相談支援センター設置をすすめていく事ができた。

【児童発達支援事業(定員10名)】

- 5領域(健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性)を意識したプログラムを作成し、適切なアセスメント、支援を展開する事ができた。
- 経験5年以上の保育士等を配置し、専門的支援体制を確保、実施することで質の高い支援、加算の拡充につなげた。

【地域活動支援センター】

- 地域との関りを生かし、利用者、地域住民、ボランティアと共に、障がい者支援センター内(児童発達・放課後等、生活介護)の利用者(児)と交流を図り、作品制作する機会等を持つ事で、生きがいづくり、地域づくりにつなげた。

2 業務を推進していく場合の課題

【相談支援事業】

- 基幹相談支援センター受託に伴い、地域の相談支援事業所としても、今後さらに他県からの転入者、関係機関からの相談増も見込まれる。法人内、他機関連携、それに応じた他法制度の知識、理解を高める必要がある。

【児童発達支援事業】

- 職員の専門性向上、支援の質の確保を目的に、積極的な外部研修への参加、関係機関連携をさらに進めていきたいが、限られた人員体制の中では、日常業務との両立が難しい事が多い。こども、保護者への安心感、信頼獲得につなげる為にも、必要な人材確保を計画的に進めていく事が、法人全体の質の向上、安定運営につながる。

【地域活動支援センター(委託事業)】

- 利用者が安心、安全に過ごせる場所としては、物理的、心理的なバリアの解消が不可欠である。法人内での協力体制に併せて、事業の継続を見据えた人的・物理的環境の整備について、行政と連携しながら検討していく必要がある。

3 今後の方針

【相談支援事業】

- 基幹相談支援センターと情報共有やケース検討を行い、支援に対する多角的な視点を持ち、専門的、包括的な相談支援の提供を目指す。
- 専門的支援体制を確保する為の研修受講、人材確保を行う事で、持続可能な運営体制を目指す。

【児童発達支援事業】

- こども、家族から具体的なニーズをより的確に把握ができるよう、家庭訪問、関係機関との連携を充実させ、支援内容に反映させていくことを目指す。
- 子育て支援や地域とのネットワークを持つ社協の強みを活かし、地域支援、地域連携の機会をさらに広げていく。

【地域活動支援センター(委託事業)】

- 障がいのある方地域での困り感を抱えている方、ひきこもり支援としても、行政、関係機関、法人内でも連携を図り、環境調整、活動の場の提供を行っていく。

番号	事業の名称	継続	事業形態
210	合志市相談支援事業1(「れんがの家」のみ)	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
	障がい者(児)・そのご家族等の相談に応じ、福祉サービスの紹介や、相談支援を行った。合志市障害相談委託事業所でもあることから、他県から転居予定の方、市民、市民以外、サービス事業所、保育園、幼稚園、学校(支援学校)、行政等関係機関からの相談や、医療機関等も含めて相談対応を行った。複雑な課題を抱えるケースにも、社協内、関係機関で必要な情報共有し、課題の解きほぐしを行なった。今年度も、菊池圏域自立支援協議会員として各部会への参加、サービス部会活動等に参画した。	営業日	月～土
R6年度一般相談件数:755件		営業時間	8:30～17:15
支援方法	訪問 来所 同行 電話 メール 会議 調整 他 計	休日 日、祝日	12/29～1/3 (日祝、営業時間外等は24時間電話での対応)
	74 33 52 219 12 22 64 7 483	対象者	合志市住民
番号	事業の名称	継続	事業形態
210	合志市相談支援事業2(「れんがの家」のみ)	継続	合志市受託事業
(年間相談支援内容)		営業日	月～土
支援内容ごとの件数		営業時間	8:30～17:15
① 福祉サービス調整 288件 ② 障がい病気の理解 6件 ③ 健康医療 29件 ④ 不安・情緒安定 21件 ⑤ 保育・教育 12件 ⑥ 家族・人間関係 6件	⑦ 家計・経済 4件 ⑧ 生活技術 18件 ⑨ 就労 19件 ⑩ 社会参加余暇活動 0件 ⑪ 権利擁護 7件 ⑫ その他 73件	休日 日、祝日	12/29～1/3 (日祝、営業時間外等は24時間電話での対応)
※1件の相談において複数の内容があり、支援方法と支援内容の件数に誤差が生じる。		対象者	合志市住民
番号	事業の名称	継続	事業形態
208	指定特定相談支援事業	継続	障がい者総合支援法
(事業内容)		営業日	月～土
		営業時間	8:30～17:15
		休日	日、祝日 12/29～1/3
R6年度年間実績		対象者	障がい者
計画相談契約者総数	225件		
サービス利用計画総数	174件		
モニタリング報告総数	436件		

番号	事業の名称	継続	事業形態
209	指定障がい児相談支援事業	継続	障がい者総合支援法 児童福祉法
(事業内容)		営業日	月～土
障がいのある児童が適切にニーズに合った福祉サービスの利用ができるよう保護者の相談に応じながら、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し(モニタリング)を行った。		営業時間	8:30～17:15
今年度年間実績		休日	日、祝日 12/29～1/3
計画相談契約者総数	373件	対象者	障がい児
サービス利用計画総数	405件		
モニタリング報告総数	649件		



令和6年度れんがのなかまたち展にて

番号	事業の名称	継続	事業形態		
213	児童発達支援事業1	継続	児童福祉法		
(事業内容)					
	発達に心配のある児童や障がいを持った児童が、身近な場所で年齢に応じた丁寧な支援を受けられるよう、個別支援計画に基づき、様々な領域の遊びや基本的な生活習慣の指導を取り入れ、児童の発育を促しながら実施した。今年度は、午前の小集団を、午前:年中、年少、未満児と、午後:年長のグループに分け、それぞれの発達に応じた活動を行った。併せて、午後:年長児の個別活動を行い、就学に向けた療育にも取り組んだ。また、保護者会や面談等に取り組み、療育活動内容を保護者に知っていただくとともに、関わり方や今後の進路等の相談など、家庭支援にも力を注いだ。	営業日 月～土 但し土曜日は 第1.3閉所(月 により変動)			
	また、今年度も、「障がい者芸術展」、お菓子の香梅光の森店で開催した「れん がのなか・またち展」にも出展、芸術に触れ感性を育むとともに、地域社会への啓 発も行った。	営業時間 8:30～17:30			
		対象者 未就学の障 がい児			
		利用定員 10名			
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態		
213	児童発達支援事業2	継続	児童福祉法		
(年間実績者数)					
延べ利用者数 2,237人	開所日数 267日	平均利用者数(日) 8.4人			
(登録者数)					
障がい 種別	身体 0	知的 2	発達 10	無診断 24	計 36人
年齢別	未満児 5	年少 5	年中 16	年長 10	計 36人
・新規契約数:21人					
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態		
213	児童発達支援事業3	継続	児童福祉法		
(見学・会議等連携)					
保護者見学 関係機関連携	34件 42件	家族支援 個別支援会議	113件 各児年に2回実施		
・4、5、6月「保護者面談・事業説明会」 ・7月「療育参観・懇談会」(年長児・保護者)、「親子活動ミュージックケア」 (利用児・保護者) ・8月「療育参観・懇談会」(年少児・保護者)、「親子れんが」 ・9月「就学に向けて～ペアレンツメンターさんに話をきこう～」(年中児・保 護者)、「親子れんが」 ・10月「アウトドアをしよう」(利用児・保護者) ・11月「親子れんが」 ・12月「クリスマスコンサートに参加しよう」(利用児・保護者) ・1月「年長児保護者対象個別面談」 ・2月「年長児保護者対象個別面談」 ・3月「年長児お別れ会」(年長児とその保護者)					
【外部講師】					
・歯科衛生士による口腔チェック、指導(2ヶ月に1回)、 ・元支援学校教諭(月2回)					
【地域住民のボランティア協力行事及び地域交流行事】					
・食育(芋ほり、畑活動)、ハロウィン、ふれあい館デイサービスとの交流(敬 老会)、地活との陶芸協同制作(卒園記念品)					

番号	事業の名称	継続	事業形態
201～206	合志市地域活動支援センター	継続	合志市受託事業
(事業内容)			
	合志市委託事業として障がいをお持ちの方々の余暇活動及び相談支援を実施した。利用者間の関係づくりや相談援助なども細かに対応し、創作・生産活動を通して共同活動を行う事によりコミュニケーションを図った。生産活動の完成品は市内のユーパレス弁天・カントリーパークの物産、れんがの家で販売した。	営業日	火・水・金・土
	今年度も、「障がい者芸術展」、お菓子の香梅光の森店で開催した「れんがのなかまたち展」にも出展者を募り、意欲向上に繋げた。	営業時間	9:00～16:00
(年間利用者数)			
・延利用者数:824人・登録者数:86人(地域別:合志市76人、菊池市7人、菊陽町1人、大津町0人、熊本市2人、他0人)			対象者
(活動実績)			障がい者 菊池圏域住民
・創作活動:253件、生産活動:147件、相談援助:1件、他:18件、 手話:62回(194人)、陶芸:49回(405人)、行事:カフェ&ギャラリー17回(29人)・外出行事等2回(14人)、季節行事3回(24人)			



地活の皆さんと地域交流
「ハロウィン」



「就学に向けて～ペアレントメンターさん
に話しをきこう～」

令和6年度 事業報告書

担当課	班
スペーシアれんが課	放課後等デイサービス班 生活介護班

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果	
(1) 放課後等デイサービス(重心児5名、重心児外10名)	
① 総合的な支援【発達支援・家族支援・地域生活支援・地域連携・移行支援の実践】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもたちの発達の可能性に着目し、将来の成長した姿を見通しながら、生きる力の育成を目標に、5領域(「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」)の視点を踏まえ、生活や遊びを通した、個別支援の実践に取り組んだ。 ・ 特にライフステージにおいて、高等部卒業後の児童に対し、卒業後の生活を見据え、自己理解や生活スタイルを一緒に考え、自信と意欲を持ち社会生活を送ることができるよう相談援助を継続した。 ・ 重度強度行動障害児や医療的ケア児・退院後の重症心身障害児の受入れも職員体制を整え行った。 ・ 家族の困りごとや要望に対し、気軽に相談できる関係性づくりのため、公式LINEの活用や定期的な面談の実施を行う。就労される保護者の生活スタイルに対応できるよう、早朝から夜19時までの利用体制も工夫し対応した。 ・ 保護者会を開催し、郷土料理作りやパラスポーツ(ボッチャ)体験を通し保護者同士のつながり作り行った。 ・ こどもと家族に対し、包括的な支援を進める観点から学校や医療機関等との情報共有や連絡調整を行い個別支援に取り入れた。 	
②職員の支援の質の向上を図る	
<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの支援について職員ミーティングを強化し、具体化した対応を全職員で取り組むチームつくりを行う。また、それぞれの職種による専門性や安全管理・美化感染・療育環境・給食等の係、委員会を作り、責任を持って関わる体制づくりを行った。 	
(2) 日中一時支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・ レスパイト利用の目的から放課後デイサービスとのすみ分けを明確にし、保護者の預かりの要望に対応した。利用希望は多く、利用者数も伸びた。 	
(3) 生活介護(定員7名)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度利用者の利用希望があり、スペースの課題を工夫しながら体制を整えることで、利用につなげ保護者の就労継続が叶うことができ、かつ安定した事業運営につながった。 ・ 利用者の活動性向上を目的に、生産活動、運動、レクレーション、戸外活動などのプログラムを工夫した。作業療法士の視点も取り入れ、個別の機能訓練を充実した。 ・ 生産活動では、ふれあい館等でも生産品をおき、廃油石鹼やアクセサリー等の販売が好評で、利用者の意欲向上につなげた。 	
2 業務を推進していく場合の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後デイサービス: 支援の質の向上を目的にガイドラインの理解と実践。事務効率化の向上のための職場環境整備。 ・ 生活介護: 引き続き、利用者受入れに対するスペースの課題と工夫。特に放課後デイの長期休暇期間は課題。 	
3 今後の方向性	
(1) 放課後等デイサービス	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校期から中学・高校期までのライフステージを過ごすこどもに対し、年齢に応じた課題に向き合い、生活スキルの習得、健康管理や人間関係、社会性の向上を図り「自分の人生を豊かに暮らす力」を育てる。併せて、障がいのあるこどもを育てる親の不安や困りごとにも寄り添いながら支援する。 	
(2) 生活介護	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動プログラムの強化と栄養マネジメントを行い、生活習慣病の予防や生活リズムの活性化を図る。 ・ 生産品の生産、販売に取り組み、働く意欲と成果を持ち、利用者への還元を図る。 	
(3) 課の共通	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全計画の実施、災害時の対応、各マニュアルの見直しを図り、リスクマネジメントの強化を図る。 	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
214	放課後等デイサービス(障害児・医療的ケア児)	継続	児童福祉法
(事業内容)			
	スペーシアれんがにおいて、障がいのある学齢期のこどもたちを、授業の終了後又は休業日に預かり、生活能力の向上のために必要な訓練、地域社会との交流促進、その他様々な社会体験を通し、利用児の健全育成を図ることを目的に実施した。報酬改定に合わせ、保護者のレスパイトを目的に延長支援体制を整えた。	営業日	月曜日～土曜日
(年間実績者数・放課後等デイサービス事業)			
	令和6年度		
利 用 実 人 数	28人		
延 べ 利 用 者 数	2710人		
開 所 日 数	2913日		
平 均 利 用 者 数 (日)	9.3人		
医療的ケア児	個別サポート児	個別サポート児外	
3人	20人	8人	利用定員 障害児:10名
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
214	放課後等デイサービス(重症心身障害児)	継続	児童福祉法
(事業内容)			
	スペーシアれんがにおいて、重度心身障がいのある学齢期のこどもたちを、授業の終了後又は休業日に預かり、生活能力の向上のために必要な訓練、地域社会との交流促進、その他様々な社会体験を通じこどもたちの健全育成を図ることを目的に実施した。医療的ケアを必要とする児童に対して看護師の人員配置を整え、より細やかなケアの提供を実施した。	営業日	月曜日～土曜日
(年間実績者数・放課後等デイサービス事業(重症心身障害児)			
	令和6年度		
利 用 実 人 数	11人		
延 べ 利 用 者 数	1,054人		
開 所 日 数	291日		
平 均 利 用 者 数 (日)	3.6人		利用定員 5人
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
214	放課後等デイサービス(障がい児、医療的ケア、重症心身障害児)共通	継続	児童福祉法
(相談支援・学校、医療機関との連携)			
事業所内相談(家庭支援)	114件		営業日 月曜日～土曜日
関係機関との連携	17件		営業時間 9:00～17:00
(外部講師による支援)			
・口腔歯科センター歯科医による歯科検診(保護者同伴)			休日 日、祝日 12/29～1/3
・歯科衛生士による口腔ケア及び指導(2か月に1回:6回実施)			対象者 障害児 重症心身障害児
・ストリートダンス教室(毎月1回)			
(主な活動行事等)			
・外出(菊池市民広場・熊本県立劇場、恐竜博物館、プラネタリウム)、いもほり、ふれあいデイサービスとの交流夏まつり、キッズクラブとの交流、障がい者芸術展、クッキング、れんがのなかまたち展、OTジャーナル作品出展、保護者交流会(芋あん団子汁・ボッチャ交流)		利用定員 15人	

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
215	日中一時支援事業	継続	合志市委託事業
(事業内容)			
	合志市在住の障がいのある小・中・高校生の預かりサービスを行った。主に保護者の就労による要望に対し、放課後等デイサービス営業時間外の早朝・夕方の利用児童の保護者就労等による預かりを目的として対応している。		
(年間利用者数・利用児童数)			
	令和5年度		
利用実人数	18人		
延べ利用者数	809人		
開所日数	291日		
平均利用者数	2.8人		
区分	行動援護対象者	その他	合計
令和6年度	4人	14人	18人
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
216	生活介護	継続	総合支援法
(事業内容)			
	日常生活に必要な援助を要する障がいのある方に対し、入浴、排せつ及び食事等の介護、日常生活上の支援、創作活動、生産活動その他身体機能・生活能力向上のための機会を提供した。生産活動においては「廢油せっけん」や小物等を作り、クラッシャー合志等で委託販売した。生産活動のほか、地域の美化活動やれんが内の環境整備の役割を担い、SDGsを意識しながら取り組んだ。		
(年間実績者数)			
	令和6年度		
登録者数	14人		
延べ利用者数	1,177人		
開所日数	242日		
平均利用者数(日)	5人		
(障害区分別利用者数)			
区分	3	4	5
令和6年度	0人	3人	7人
	6	合計	
	4人	14人	
利用定員	7人		
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
216	生活介護その2	継続	総合支援法
(主な生産活動)			
	・廃油石鹼、ビーズアクセサリー、エコバッグ、あいまるポーチ		
	・社協事務作業補助(ほっとライン同封作業)		
(主な販売先)			
	・施設販売…クラッシャー合志、カントリーパーク		
	・イベント販売…キッズフェス		
(主な活動行事等)			
	・外出(ピクニック、道の駅旭志コスモス鑑賞、障がい者芸術展、なかまたち展鑑賞)クリッキング、生産活動、創作活動(芸術展出展、OTジャーナル表紙募集)、美化作業(地域清掃、洗車、室内清掃)、機能訓練、買い物学習		
(外部講師による支援)			
	・歯科衛生士による口腔チェック、指導(2ヶ月に1回)		
利用定員	7人		

令和6年度 事業報告書

担当課	班
このみ坂保育園	このみ坂保育園

1 本年度に取り組んだ業務の主な成果

(1) 施設の運営・経営管理について

児童福祉法及び関係法令を遵守し、社内管理規定や運営方針、経理管理や職員体制(規定の職員配置)等、安定した運営を図ることができた。また、本年度においては、開園以来初めてのチーム保育推進加算を受けることが出来た。(この加算要件として、保育士の平均経験年数12年以上の施設等条件あり)

(2) 保育内容について

- ① 本会及び園の基本理念を基盤とした保育方針のもと、保育課程を編成し、年間及び毎月の指導計画、毎週の週案を立案、日々の保育についての評価・反省・子どもの個人記録は担任だけでなく、全職員が子どもの育ちの状況を理解し、一人ひとりの気持ちに寄り添う保育を行った。
- ② 異年齢編成の保育では、協調性が養われるとともにお互いが思いやりをもって接することの大切さを学ぶ場となった。
- ③ コロナ禍中、保護者参加の行事を十分に開催することが出来なかつたが、今年度は保護者が主催となり夏祭りの開催や園の年間行事で運動会・カミングホーム・デイキャンプ等を工夫することにより行事が開催できた。
- ④ 障がいの有無にかかわらず、様々な背景を持っている子どもが集団生活を楽しく過ごせるような工夫を配慮し、全職員が見守りに努め、安心して日々過ごすことができるよう心掛けた。また、関係機関へ相談やケース会議を開催して連携を行つた。
- ⑤ 健康管理(病気)、事故対応(ケガ・病院受診)では、保育看護を担当する看護師を中心に対応を行つた。
- ⑥ 給食では、栄養士、調理師が中心となり、在園児に対し、農園で収穫した野菜を食材として使うことで子どもの食育活動にも効果があつた。離乳食については、0歳児担当職員や給食委員会を中心に保護者との調整を繰り返しながら取り組みを行つた。
- ⑦ 地域交流について、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、社協のデイサービスが行う敬老のお祝い行事に合わせ、高齢者へ歌などを披露し交流を図ることが出来た。また、ふれあいフェスティバルやシングルシルバーふれあいのつどいでは、和太鼓の披露や農園や絵本の読み聞かせを通して異世代とのつながりを強めた。
- ⑧ 「つどいの広場」は、家庭で子育て中の方の居場所としての役割を担つた。行事の再開や保護者同士のつながりからピアカウンセリングが広がるなど多くの利用があり、子育ての負担感の軽減に努めた。

2 業務を推進していく場合の課題

- (1) キャリアアップ制度を利用して待遇改善を図り、専門リーダーの育成を行うとともに、その役割を業務の中で遂行する。
- (2) 保育現場の負担軽減に向けた業務改善。
- (3) 保育の質の確保と向上。
- (4) 施設や遊具・備品等の整備を図り、計画的に改修等を行う。

3 今後の方向性

- (1) 環境の変化を踏まえ、子どもの健康管理や安全対策に取り組む。
- (2) コロナ禍を経ての行事の見直しと取り組み。
- (3) 異年齢保育の充実。
- (4) 職員の業務に対する見直しと資質向上。
- (5) ICT化による業務の効率を目指す。(令和7年度目標:更改革業者の選定)

番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
217-220	通常保育事業 (異年齢保育・障がい児保育・体力、食育推進)	継続	児童福祉法
(1) 保育理念である「人を思い、人を育て、ヒューマニズムを育む保育園」を基本に、「優しさや思いやり」を育てることを大切にする保育に取り組んだ。社協の保育園としての特色を生かし、異世代交流、地域交流や体験活動などを日常に取り入れた。 入所児童数(定員90名) 園児総数(88~100名)	事業費	136,821千円	
① 異年齢保育では3・4・5歳児の年齢層の子どもたちが、生活や遊びの中で人と関わりながら育ち合う学びがあった。 ② インクルーシブ保育を心掛け、支援や配慮が必要とされる子どもには保護者や関係機関との連携を図りながら対応した。 ③ 体力・食育推進は、保育者だけでなく、外部講師や地域のボランティアさんと共に活動した。 ④ 職員の平均経験年数12年以上他いくつかの条件があるが、チーム保育推進加算を受けることが出来た。	実施日時	R6年4月1日～ R7年3月31日	
	実施場所	このみ坂保育園	
	対象者	0歳児～5歳児)	
	人 数	園児総数100名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
221-223	その他の事業 (延長保育・一時保育・副食費徴収事業)	継続	児童福祉法
(1) 延長保育事業 (月曜日～土曜日 18:01～20:00) 多様な就労形態に対応するため、通常保育を延長して保育を行つた。新型コロナウィルス感染症5類への変更に伴い、延長保育時間を通常の20:00までとし保護者の勤務時間のニーズに合わせて対応した。	事業費	3,321千円	
(2) 一時保育(自主事業) 子育て支援である、児童の健全育成、保護者支援等福祉の増進を図ることを目的とし自主事業で行った。 (実施日数10日 延べ利用者10名)	実施日時	R6年4月1日～ R7年3月31日	
(3) 副食費徴収事業 令和元年10月から3・4・5歳児の保育料の無償化に伴い、主食費・副食費については園より口座振替で徴収を行っているが、スムーズに引落しが行えている。	実施場所	このみ坂保育園	
	対象者	このみ坂保育園児 及び合志市内対象児	
	人 数	延長利用児童67名 利用者総数1,887名	
番号	事業の名称	新規・継続	事業形態
224-225	地域子育て拠点事業(ひろば型)	継続	合志市受託事業
(つどいの広場:わかば) 地域の子育て支援として、子育て中の親子等が家庭に引きこもることなく、気軽に集える場所として、様々なイベントを通して楽しみながら交流を行っている。コロナ前に定期開催していた人気のイベント(給食体験)を再開して喜んでいただいている。 (親子交流、ピアカウンセリング、情報の提供、子どもの発達相談、季節のイベント、給食ランチ会、お茶会、音楽遊び等)	事業費	4,250千円	
開催 月～金曜日 10:00～15:00 利用料 なし (参加状況) ・開催日241日 (行事企画回数53回 参加者665名) ・新規来園者84組 ・利用者 乳幼児923名 保護者852名 その他(ボランティア)32名 総数1,807名	実施日時	R6年4月1日～ R7年3月31日	
	実施場所	このみ坂保育園内 専用保育室	
	対象者	家庭内保育を行つ ている親子	
	人 数	参加総数1,372名	



安心創造ネットワーク

社会福祉法人 合志市社会福祉協議会

口本 所 保健福祉センターふれあい館 TEL 096-242-7000
〒861-1102 熊本県合志市須屋2251番地1 FAX 096-242-6635

ホームページ <http://www.koshi-shakyo.or.jp>